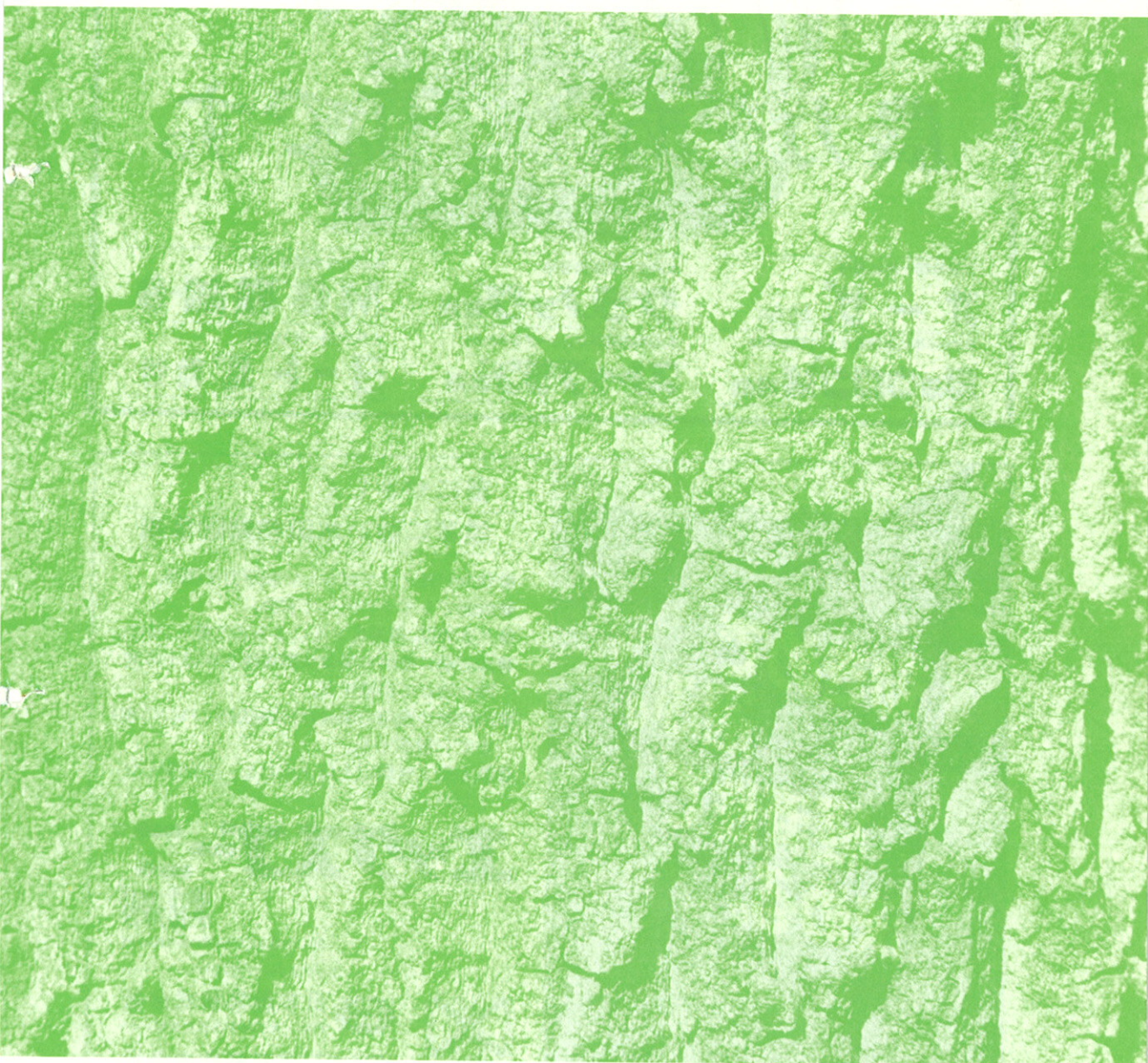


植調

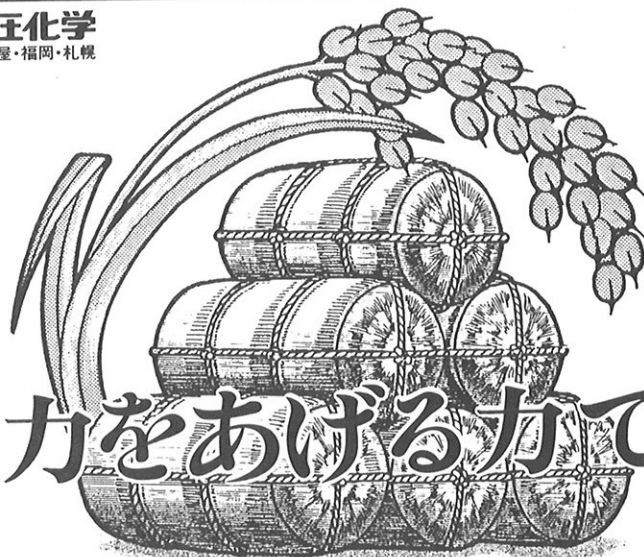
第20巻第12号



財団法人 日本植物調節剤研究協会編



三井東圧化学
東京・大阪・名古屋・福岡・札幌



農力をあげる力です。

水田初期一発処理剤

オーザ[®] 粒剤

ホタルイ等に卓効を示す初期除草剤

ショウロンM[®] 粒剤

水田全天候型除草剤

グラノック[®] 粒剤

水田問題雑草にシャープなきれあじ

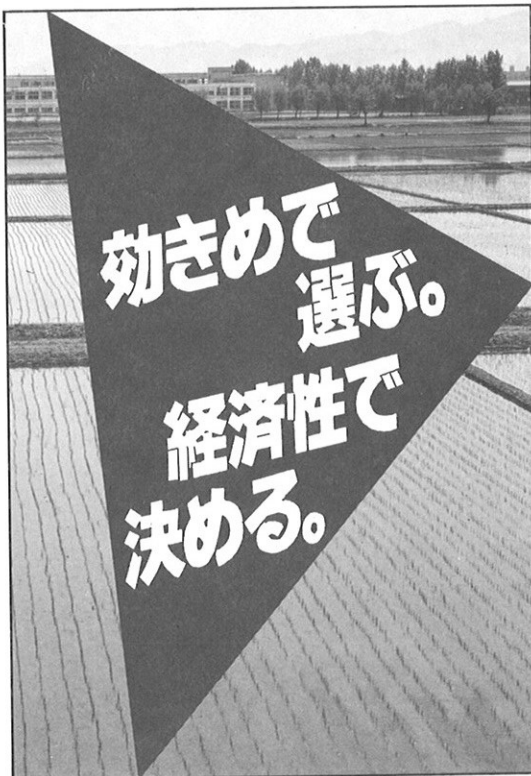
ストップラン[®] 粒剤

経済的な初期除草剤

MO[®] 粒剤-9

水田初期一発処理剤

ヨートル[®] 粒剤



苗にやさしく

雑草に強い水田初期除草剤

- 効めが長く、すばらしい殺草力を発揮。
- 低温でもイネに対して安全。
- 人畜毒性、魚毒性ともにきわめて低く、安心。
- 田植前に使用の場合は散布後3日以上の間隔をあけて田植する。
- 田植後に使用の場合は田植後8日(ノビエ1葉)までに散布する。
- 散布後3日間以上は止水にし、かけ流しはしない。

エックスゴーニ[®]
粒剤

®は日本農薬と石原産業の共有登録商標

エックスゴーニ協議会



○本剤のシンボルマークです



日本農薬株式会社

〒103 東京都中央区日本橋1-2-5



石原産業株式会社

〒102 東京都千代田区富士見2-10-30

安全防除の指導

最近におけるわが国経済は、御存じの通り、工業製品の輸出によって支えられていて、近年特に急速に発展し貿易収支は、大幅な黒字となっている。これらの基盤産業では情報化の進展、コンピュータ、ロボットの利用など急速に増加しつつある。

このような産業構造の変化のもとに、外圧と内部事情が重なってわが国の農業も変化をよぎなくされて、付加価値を高めた販路の開拓が大きな課題となってきている。

さて、総理府が先般農家・非農家を対象に行なった「これからの農業に期待すべき点」のアンケート調査によると、一番多かったのが「自給率の向上」で54.6%、次いで「農薬を減らし安全な食糧の供給」が41.1%であった。また、全国農協中央会が都市生活者に「期待する農協事業」について調査したところ「新鮮で安全な農産物供給」が55.8%で圧倒的に多かった。これらは消費者の農産物安全性に対する関心が年々高まっているものを示すものであろう。

現在流通している農薬の安全性については、いうまでもなく農水省の厳しい審査のもとに登録されており、全く問題はない。要はこれらの農薬を使用する農家が、農薬の安全性について十分認識し、正しく使用するための指導を徹底することであろう。

系統農協では新しい安全防除運動として、60年12月から「安全防除全農家実践運動」をスタートさせた。これは安全防除の実践者である農家に農協職員が直接訪問し、庭先や圃場で対話をしながら安全防除を徹底させることを基本としたものである。

このためには農協職員の質的向上も必要であ

目次 (第20巻 第12号)

日本ナシの施設栽培…………… 2

＜佐賀県果樹試験場 広田隆一郎＞

1. 施設栽培化の背景…………… 2

2. 施設栽培の作型と品種…………… 3

3. 簡易被覆(トンネル)施設の概要…………… 4

4. ビニールの被覆と除草時期…………… 4

5. 果実の肥大生長…………… 4

6. 施設栽培果の品種…………… 5

7. 施設栽培園の特質…………… 6

8. 植調剤の利用…………… 6

9. 施設栽培のポイント…………… 7

昭和61年度水稻関係除草剤試験成績

概要…………… 8

＜財団法人 日本植物調節剤研究

協会 技術部＞

新除草剤・調節剤紹介

・ナプロアリニド・プロモブチド・

メフェナセット粒剤……………41

・ピラゾレート・プロモロブチド・

メフェナセット粒剤……………42

・ハービーエース水溶剤・ビアラホ

ス水溶剤……………44

り、従来から実施している農協防除指導員養成講習をはじめとする各種研修会を関係機関の指導を得ながら一層充実させると共に、農協の営農指導事業の体制整備と機能強化が重要であり、新たに営農指導強化対策について系統農協一体となって取り組みをはじめている。

安全防除の指導は農協に課せられた大きな使命と思っている。

〔前全国農業協同組合連合会 肥料農薬部長 吉見康宏〕

ニホンナシの施設栽培

佐賀県果樹試験場 廣田隆一郎

はじめに

ナシの主要品種が二十世紀と長十郎の二大品種に限られていた10数年前の収・出荷に対する考え方と幸水を主体というより、幸水だけの一水時代になりつつある現在のナシ栽培では考え方が大きく異なる。熟期の短い幸水を主要品種にした場合に困るのは収穫と選果場の運営であり、4月、5月に集中する受粉、摘果等の手作業をどうするかということが問題になる。ここでは、ナシの施設栽培の背景と現在行なわれている栽培法および問題点について述べてみたい。

1. 施設栽培の背景

最近ではほとんどの樹種で施設栽培が取り入れられている。ブドウは多くの作型があるし、ミカンはや収量が倍増する。ナシでも6月中旬から新水、幸水が出荷されるようになった。しかし、ナシの場合には施設化によって収量が増加するわけではないし、品質、とくに肉質、糖が改善されるわけでもなく、単に早熟化できるだけである。ところが、全国24県で218haの施設栽培が行なわれるようになった背景は図1に示すように幸水が出荷されるようになると新水の価格は急落すること、8月中旬の市場が盆休みになる時期を境にして幸水といえども価格がとくに安くなることなど目先の価格動向に加え

て、ナシ経営面積の増加があげられる。

とくに九州では造成によって新規開園された産地が多く1ha以上の経営が多くなり、4月、5月に集中する管理が手抜きされる傾向が見られ、それを分散するために、図2のような管理体系が考えられた。ナシにビニル被覆することについては各方面から異論がとなえられたが、佐賀県下ではナシ栽培面積560haのうち約100haが被覆され、さらに増加傾向にあることは施設化による早熟化と労力分散のメリットがあるためと思われる。

佐賀県で特異的にナシの施設栽培が多いのは施設量を極力抑え10a当たり40万円見当でできる棚上トンネルというきわめて簡単な施設にし、5～7日早めに春先きの管理ができる労力分散に主眼をおき、早熟化はその副産と考え

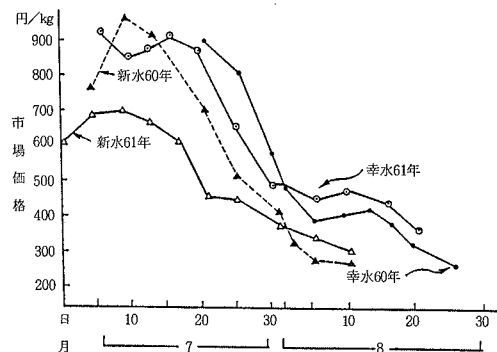


図1. 新水と幸水の価格推移（佐賀園芸連資料から作図）

たためである。しかし、最近はさらに早くということで加温あるいは無加温の施設に目が向けられようとしており、投資効率を考えた場合、非常に問題が多いけれども、幸水だけが増加している現状と選果場運営を考えるとある程度は完全な施設化もやむを得ない方向かも知れない。すでに、二十世紀に次ぐ、第2の品種になった幸水の価格安定のためには施設化は加速され、ブドウのデラウェアがハウス栽培、ジベレリン処理が当たり前になったように幸水でも施設化、ジベレリンペースト処理、エスレル散布が当然のことになる時期は目前である。

ナシの持つ特異性を無視して、早熟化だけに目を向けて、6月中・下旬出荷が多くなると生産現場における樹勢低下、消費における味不足はさけて通れず、問題は多い。初期の目的である労働分散と適期管理の徹底をはかるのが良策であり、産地間における単価競争はナシ全体のためにはあまり良い方向ではないと思われるが、幸水だけに片寄りつつある産地における施設化の方向である。

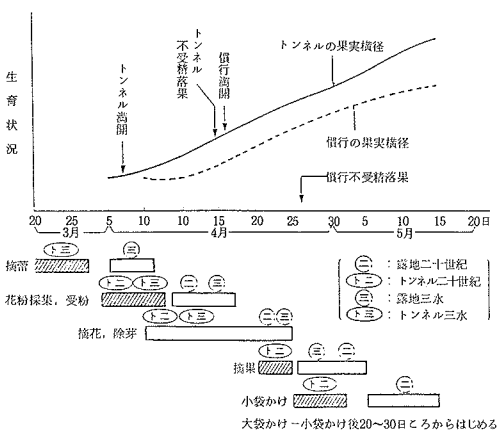


図2. 品種の組み合わせと施設を取り入れた栽培管理

2. 施設栽培の作型と品種

図1に示したように幸水が出荷されると新水の価格は急落する。逆に図には示していないが、幸水が市場にある間は二十世紀、長十郎の価格も安定しない。

ナシの市況は幸水を中心にまわっており、作型も幸水を主にして表1のように複雑になっている。施設化すれば、ジベレリンペーストによる果実肥大とエスレルによる熟期促進は当然と考えられるようになっている。

いっぽう、新水は小玉で収量が上がり、黒斑病に弱いために敬遠され、豊水はミツ症の発生と幸水がある間は価格が安いために不安定で、現在のところ、施設栽培に向く品種は幸水と収量が安定している二十世紀が残されている。二十世紀は黒斑病だけに注意しておれば、収量は安定し、生育初期に高温に保たれるために果肉が軟かく仕上がり、ユズ肌が激減するために商品化率が高く安定している。今後は、寡照下でも商品質果が生産できる品種を見直して、6月出荷の新水、幸水より品質の良い果実が生産できるようにしなければならない。また、移出産地である鳥取県以西の産地ではどのようにして

表1. ビニールトンネルの資材

(10a当たり)

番号	品名	規格(mm)	数量
①	支柱	31.8×1.2×2,800	24本
②	(75cm穴あけ)	31.8×1.2×2,600	96本
③	受皿		120個
④	キャップ	φ 318	120個
⑤	天井アーチパイプ	12.7×2,400	312本
⑥	天井スプリング		312個
⑦	サイドスプリング		624個
⑧	天井サイド線	半鋼線#12	50kg
⑨	骨柱	#12間口	450
		1,500×780×2,400	セット
⑩	ハウスバンド	中芯30本 500m	4巻
⑪	ポリビニール	0.05×2,100	150m
⑫	天井ビニール	0.1×2,300	650m
		両ハトメ50cm	

生産量をまとめるかということが、きわめて今日的課題であり、個々の思惑だけによる早熟化作型は成立しないようになってきている。

3. 簡易被覆（トンネル）施設の概要

1戸当たりのナシ園経営面積が大きい佐賀県では10a当たりの投資額を最小限にし、労力分散を主目標に図3のようにナシ棚の上に簡単なアーチを乗せて、ビニールを被覆するようにしている。

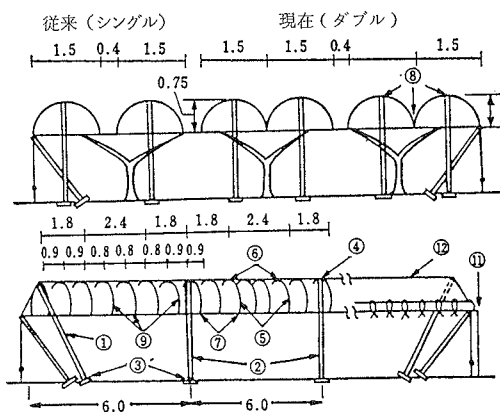


図3. ビニールトンネルの構造（単位：m）

①～⑫は第1表の番号と連動する

ビニールハウスにして、多額の投資を行なえば20～30aは投資に見合うだけの管理はできるだろうが残りの部分は手抜きされただろうしハウスは毎朝夕同じように換気作業が必要になる。しかし、簡易被覆はアーチとアーチの間に空間を設けているので、密閉度は少ないが、その分だけ換気作業を行なわなくてもよいようになっている。

ビニール被覆中は毎日、換気のために同じ作業を必要とせず、慣行の露地栽培の管理ができるのか簡易被覆の大きな特長である。最近ではアーチを連続させる骨組みも開発されているがビニ-

ールの中で調節するようにしており、高温障害を最小限にしている。

4. ビニール被覆の除去時期

ナシの被覆栽培が他の樹種と大きく異なるところは加温あるいは無加温、簡易被覆にかかわらず、5月中・下旬にはビニールを除去するところであろう。加温ハウスの場合には熟期に当たる6月中～下旬に再度ビニールを被覆して降雨をさけるようにしている産地もあるが、収穫が終わるまで被覆しておくで樹勢低下がいちじるしく、果実は小玉で、味不足になり易いためである。加温の場合には自発休眠がほぼ完了と思われる1月中旬から加温が始められているが、一般的には2月に入ってから被覆が多い。

簡易被覆は3月上旬頃に被覆し、4月5日頃には開花し、5月中旬にビニールを除去する作型が多い。ビニール被覆中わずか30日程度しか生育していない葉の生理機能は収穫期になっても露地で生育した葉とは異なり、同化能力は弱く、散速度は速いようである。

開花前30日、開花後40日のわずか70日の被覆でも樹に及ぼす影響は非常に大きい。また、落花期から不受精落果の時期に当たる4月中下旬には特異的に主枝の背面に日焼けを生じやすい時期があり、早い時期にビニールを除去してもよいのではないかという意見もある。

5. 果実の肥大生長

幸水の被覆栽培果と露地栽培果の細胞層数の変化で観察すると、図4のように高温になる被覆下の果実は急激に細胞層数が増加するが、細胞層数が変らなくなる時期、つまり細胞分裂終期は被覆も露地も変わりがなく被覆下では一時的に急増するが、その後はだらだらとし、最終

的には細胞層数は露地よりいくらか少なくなっている。細胞の肥大でも同様に早くから大きくなる傾向はみられるが最終的には露地栽培の果実より小さい。

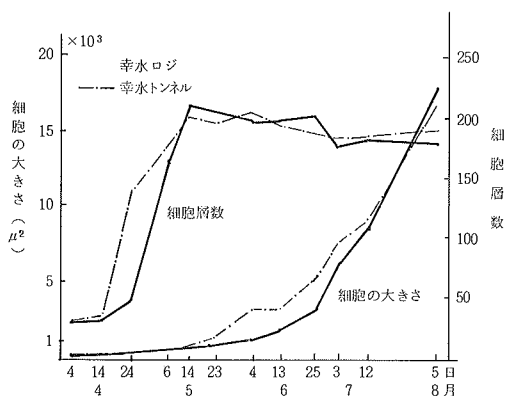


図4. 幸水果実の細胞分裂と肥大

被覆栽培の果実は大小のばらつきが大きく平均的には小玉果が多く、収量減になるといわれていることと一致しており、ジベレリン処理等によって大玉に仕上げてても変形果が多く、品質がともなっていないのは樹の持つ能力以上に果実を肥大させるための結果であり樹勢低下の遠因とも思われる。

さらに表2のように、露地と被覆の果実を比較してみると、明らかに種子数が少なくなっており、落花後の急激な細胞分裂が関与しているかどうかは明らかにされていないが、多くの試験結果でも共通している。

表2. ロジとトンネルの果実品質の比較（幸水、1986）

	縦 径	横 径	果 重	糖	果 肉 硬 度	果 色	種子数
	mm	mm	g	%	kg		個
ロ ジ	66.7	86.4	280.7	13.7	0.8	4.7	7.6
ト ン ネ ル	72.5	90.8	343.1	11.8	0.6	3.2	5.4
(トンネルGA)	72.5	91.8	344.4	12.0	0.5	5.0	4.7

注) ロジは8月13日、トンネルは8月5日調査、果色はカラーチャート表面色No.

被覆栽培と露地栽培の果実肥大経過は図5のとおりで、特定果についてみると被覆栽培のは

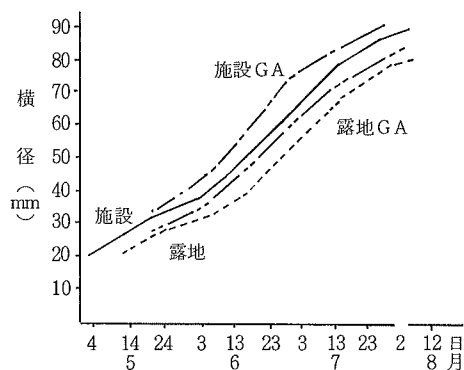


図5. 幸水の横径肥大の推移

うが終始大きく、ジベレリン処理によってさらに大きくなっている。

この肥大経過をさらに果実の縦横比の変化と比較すると裂果の少ない被覆下の果実は縦横径比が小さく、腰高傾向で肥大しているのに対し

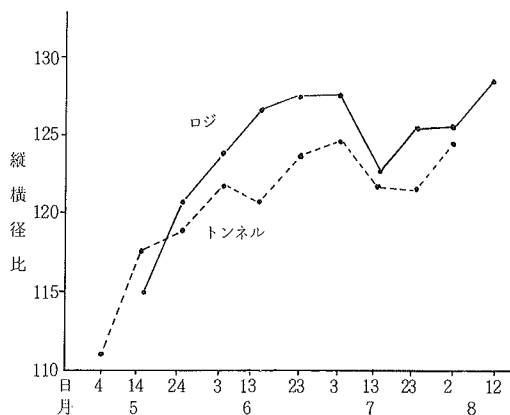


図6. ロジとトンネルの幸水の縦横径比の変化

て、露地栽培果は縦横径比が大きく経過しているが、7月3日から13日、開花後90日頃に急激な変化がみられ梅雨末期の降雨との関係で裂果しやすくなっているのではないかと考えられ、簡易被覆栽培はこの面でも改善されているのではないかと考えられる。

6. 施設栽培果の品質

施設栽培果は大小のばらつきが非常に大きく、

大玉果ほど変形果が多くなる傾向がみられる。これは前述の通り、種子数と関係し、枝葉の過繁茂もある。そのため、果皮の色づきは遅れ、内部的には成熟していても収穫できない問題点になっている。新水、幸水の場合には一般的に施設化によって糖が低く測定されるが、これは梅雨明け後間もなく収穫され、日照不足下で成熟するためである。筆者が幸水の初収穫日を安定的には7月20日、早くても7月10日とし、6月中～下旬収穫に異論を持っているのはこの辺りにある。

7. 施設栽培園の特質

施設栽培で問題になるのは連年被覆できるように樹勢を保つことである。表3を見るとハウス1年目ですでに新梢の発生本数、長さとも劣っており、明らかに樹勢が低下しており、逆にトンネル1年目では発生本数が多く全新梢長も露地よりいっそう短くなっていない。しかし、3年目、5年目は明らかに新梢長は短くなっていることがわかる。

表3. 幸水の施設栽培年数と発育枝の形質

	1 樹 当 り					新梢長100cm以上		
	全 新 梢 長	発 生 本 数	平 均 新 梢 長	平 均 芽 数	花 芽 着 生 率	本 数	割 合	花 芽 率
	m	本	cm		%	本	%	%
露 地	351.4	577	60.9	12.8	40.7	80	13.8	44.3
ハウス 1年目	286.9	399	71.9	12.9	46.6	81	20.4	57.5
トンネル 1年目	318.7	589	54.1	11.2	36.5	27	4.6	23.2
3年目	264.7	491	53.9	11.8	47.3	19	3.8	38.9
5年目	258.9	407	63.6	13.2	34.1	53	13.1	24.3

佐賀県では現地で約10年の施設経験があり新梢長1m以上の発育枝が多くなるように努力しているがトンネル1年目から3年目には非常に少ない、この時期に樹勢が低下しやすく、枝伸びが悪くなることが明らかである。短い新梢

数を少なくして、長果枝として使える新梢を多くするようなせん定なり、新梢管理が望まれるところである。

8. 植調剤の利用

施設栽培ではジベレリンペーストの利用は非常に多くなっている。それは表4のように果実肥大と熟期促進が目的になっている。とくに、果皮の色づきがジベレリンペーストの利用によってもかなり良くなっていることが注目されている。

これにエスレルを併用したときの効果が渋谷らによって示されているのが表4である。エスレルの効果によって収穫調査日は早められており、明らかに熟期は促進されていることがわかる。61年4月に二十世紀以外の品種にもエスレルの利用が認められたので、今後は幸水にも利用されると思われるのが、表4のように約30g小玉で成熟するようでは問題があるかと思われる。

エスレル2,000倍程度で、横径が75mm以上になった頃、すなわち、果実が十分大きくなっ

てから裂果の恐れのない、果皮の色づきを目的に使用したほうがよいと思われる。しかし、エスレルを用いると収穫果の日持ちは明らかに短くなるので気を付けなければならない。

その他、枝梢の過繁茂防止に生育抑制剤、果実肥大のためにサイトカイニン剤等が試験されているが実用化にいたるまでの成果は得られていない。

表 4. 施設栽培における植調剤の効果 (1983, 渋谷ら)

処 理 区	果形指数	果 皮 色 (地 色)	糖 分 (B x)	p H	硬 度 (L b s)	1 果平均重 (g)	果 径 (mm) タ テ ヨ コ
1 区	118	3.8	12.3	5.32	4.62	346	76.0 90.3
2 区	115	3.2	12.2	5.38	4.45	372	77.3 89.0
3 区	118	3.2	13.1	5.30	4.58	374	76.5 90.0
4 区	125	3.7	12.9	5.22	4.55	376	73.0 91.0

注) 調査果は1区(7月27日, 7/30, 8/2, 8/5), 2区(7/30, 8/2, 8/5, 8/9), 3区(8/5, 8/9, 8/12, 8/19), 4区(8/9, 8/12, 8/19, 8/25)の各時期毎に1樹5果×3樹を調査した。数字はその平均値である。

処理区	(棚上被覆)	(サイド被覆)	(熟 期 促 進 剤 の 処 理)
1 区	3月3日～5月16日	3月11日～4月21日	G A ペースト 5月20日塗布→エスレル 7月7日 2,000 倍処理
2 区	3月3日～6月30日	" "	G A ペースト 5月20日塗布
3 区	" "	" "	無 処 理
4 区	無 被 覆 (露地)	—	"

9. 栽培管理のポイント

簡易被覆栽培では露地栽培より5～7日早めに生育が進むだけで、外見的には変りないが、前述のように、被覆による生育初期の高温日照不足の影響は大きい。

長果枝を主体に使う幸水では摘蕾が重要である。摘蕾を徹底して初期葉数を確保すること、残った花に確実にいねいな受粉を行なうことが成否を分ける。施設内の日中は高温で乾燥し、柱頭が乾き花粉の附着が悪くなることがあるので、花水あるいは少量のかん水を行なって施設内の湿度を保つようにする。

施設栽培によって少なくなる病害虫は赤星病、黒星病であり、多くなるのは黒斑病とアブラムシ、ハダニである。黒斑病は施設内で降雨が入らなくても、夜間は過湿になるので年々多くなるようである。アブラムシ、ハダニは発生すると露地栽培以上に防除が困難である。施設栽培における防除のポイントは初発を抑えることと、その時期に手散布で2～3回は防除するていね

いさだろうと思われる。

次いで、収穫の終る8月中旬以降の管理が樹勢回復と花芽の充実にとって不可欠で、盛夏期におけるかん水による細根の老化防止と秋根の伸長促進、枝抜き等による長果枝の充実対策、早期の土壌改良、施肥等、慣行栽培より約1か月早い管理が必要である。

お わ り に

ナシの施設栽培は他の果樹以上に樹勢維持に気を配らなければならない。品種の特性、樹の結果負担力以上のことを期待しても無理である。わずかな施設面積、地域におけるもうけ主義、自分さえよければという考えで早熟化に走り、後に控える大多数のナシ栽培に悪影響を及ぼさないようにすることが今後の課題と思われる。九州4県の協同研究が62年度には終了するので一応の技術組み立てはできる見とおしである。ナシの施設栽培について、筆者の考え方を述べたつもりですが、何等かの参考になれば幸甚です。

昭和61年度水稻作関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

昭和61年度水稻作関係除草剤試験成績中央検討会は、昭和61年12月11～12日の2日間、東京・国労会館において開催された。なお、適1試験は中央検討会に先がけ、昭和61年10月1日植調会館にて開催された。これらの結果の概要を報告する。

1) 第1次適用性試験(適1)成績について

昭和61年度の適1試験は、北海道地域(植調岩見沢試験地)、東北地域(植調古川試験地)、北陸地域(植調新潟第1試験地)、関東地域(植調研究所)、近畿地域(植調滋賀試験地)、中国地域(植調広島試験地)、九州地域(植調佐賀試験地)の全国7地域で35薬剤(のべ204点)について実施した。その判定結果は、第1表のとおりである。

2) 第2次適用性試験(適2)成績について

昭和61年度の適2試験は、次のような試験区

分で実施した。すなわち、稚苗移植栽培の移植前土壌混和处理(Ⅱ-1, 1剤12点)、移植前後土壌処理(Ⅱ-2, 4剤38点)、移植後土壌処理(Ⅱ-3, 58剤625点)、茎葉兼土壌処理(Ⅱ-4, 6剤52点)、適用時期拡大(Ⅱ-5, 15剤147点)、特殊雑草防除(Ⅱ-6, のべ42剤110点)、湛水直播栽培用(Ⅲ-1, 11剤75点)、乾田直播栽培用(Ⅱ-2, 1剤2点)、畦畔雑草用(Ⅳ, 10剤86点)、耕起前雑草用(Ⅴ, 5剤32点)、休耕田用(Ⅵ, 1剤6点)、体系是正用の初期一発剤(Ⅶ-1, 9剤91点)、初・中期一発剤(Ⅶ-2, 8剤124点)、長期持続型一発剤(Ⅶ-3, 1剤3点)の総のべ点数が1,403点であった。これら適2試験の判定結果は第2表、実用化可能と判定された除草剤の使用基準は第3表のとおりである。

第1表 昭和61年度水稻作関係除草剤適1試験成績判定結果一覧表

No.	薬剤名・剤型 (委託会社名)	有効成分および 含有率(%)	試験実施場所別総合評価							中央判定結果
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
1.	BAS-521 水和 (山本農薬・日産化学・ BAS F)	キンクロラク(BAS -514) 8 ペンタゾン 40	○	◎	◎	○	○ { □	◎	□	全域○ (落水処理)
2.	BSS 粒 (三共・住友化学・BA S F)	キンクロラク(BAS -514) 1 ピラゾレート 4 プロモブチド 4	○	◎	◎	◎	○	○	○	寒地○ 寒冷地・温暖地東部◎ 温暖地西部以西○

No	薬 剤 名 ・ 剤 型 (委 託 会 社 名)	有効成分および 含 有 率 (%)	試験実施場所別総合評価							中央判定結果概要
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
3.	CG-155B 粒 (日本チバガイギー・BASF)	プレチラクロール 1 CG-148 0.2 キンクロラック (BAS -514) 0.7	○	◎	○	△	□	□	□	寒地・寒冷地○ 温暖地以西□
4.	CG-115B① 粒 (日本チバガイギー・BASF)	プレチラクロール 1 CG-148 0.15 キンクロラック (BAS -514) 0.7	◎	◎	○	△	○	□	○	寒地◎ 寒冷地○ 温暖地以西□
5.	CG-SW①S 粒 (三共・日本チバガイギー)	プレチラクロール 1.5 ピラゾレート 6 シメトリン 0.5	○	◎	○	□	□	◎	△	寒地・寒冷地○ 温暖地以西□
6.	DLH-372 粒 (ダイセル化学)	DLH-382 (未) 5 未 公 開 5	□	□	□	△	△	△	△	寒地・寒冷地□ 温暖地以西△ (薬害について 再検討)
7.	DLH-376 粒 (ダイセル化学)	DLH-386 (未) 3 未 公 開 5			△	△		×		× (薬害)
8.	DPX-84B① 粒 (DPX-84B研究会 (事 ; 武田薬品))	DPX-84 0.17 キンクロラック (BAS -514) 1					○	○		温暖地西部○
9.	DPX-84CG 粒 (DPX-84CG研究会 (事 ; 武田薬品))	DPX-84 0.25 プレチラクロール 2	○	◎	◎	○				寒地○ 寒冷地◎ 温暖地東部○
10.	DPX-84CG① 粒 (DPX-84CG研究会 (事 ; 武田薬品))	DPX-84 0.17 プレチラクロール 2			◎) ○	◎	◎	◎	○	寒冷地南部～温暖地◎ 暖地○
11.	KNW-246① 粒 (KNW研究会 (事 ; 呉 羽化学))	KNW-242 5 プロモブチド 4 キンクロラック (BAS -514) 0.7				◎		○		温暖地○
12.	KSS 粒 (クミアイ化学・三共・ 住友化学)	ベンチオカーブ 5 ピラゾレート 4 プロモブチド 4	○	◎	◎	◎	◎	□	◎	寒地○ 寒冷地以西◎ 但し、砂壌土口 (効果)
13.	MT-230 粒 (三井東圧化学)	MT-124 2 ベンゾフェナップ (MY -71) 5	△	○	□	△				寒地△ (効果) 寒冷地□ 温暖地東部△ (効果・薬害)
14.	MT-331 粒 (三井東圧・BASF)	ナプロアニリド 7 プロモブチド 4 キンクロラック (BAS -514) 1	△	◎	◎	○	○	□	□	寒地△ (効果・薬害) 寒冷地◎ 温暖地東部○ 温暖地西部以西□
15.	MT-332 粒 (三井東圧化学)	ナプロアニリド 7 プロモブチド 4 プレチラクロール 2	◎	◎	◎	◎) ○	○	○	□) ○	寒地～温暖地東部◎ 温暖地西部以西○
16.	MY-613 粒 (三菱油化)	SAP 4 ベンゾフェナップ (MY -71) 4 ダイムロン 5	△	◎	◎	○	○	□ [始] ○	◎	寒地△ (効果) 寒冷地◎ 温暖地以西○

No.	薬 剤 名 ・ 剤 型 (委 託 会 社 名)	有効成分および 含 有 率 (%)	試験実施場所別総合評価							中央判定結果概要
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
17.	NC-311G 粒 (日産化学・昭和ローディア)	NC-311 0.07 オキサジアゾン 1	☐	◎	◎	△	☐	☐	☐	寒地 $\square$ 寒冷地◎ 温暖地以西 $\square$
18.	NC-311R 粒 (日産化学・八洲化学)	NC-311 0.07 モリネート 7	○	◎	◎	◎	☐	◎	○	寒地○ 寒冷地・温暖地東部◎ 温暖地西部以西○
19.	NC-315 粒 (日産化学)	新規化合物(未) 5	△	○	○	$\square$ [○] [母]	○	☐	△	全域 $\square$
20.	RPJ-861 粒 (RPJ-861研究会 (事: ローヌプーラン J))	ジフルフェニカン 0.25 ベンゾフェナップ(MY -71) 5	☐	☐	☐	☐	☐	☐	△	全域 $\square$
21.	S-485 粒 (住友化学)	S-181 0.5 S-275 0.01 プロモブチド 4	☐	◎	○	△	○	○	△	寒地 $\square$ 寒冷地○ 温暖地 $\square$ 暖地△(薬害)
22.	SL-647 粒 (SL-49研究会 (事: 石原産業))	ピラゾキシフェン 6 プロモブチド 4 キンクロラック(BAS -514) 0.7	☐	◎	○	◎	○) $\square$	○	☐	寒地 $\square$ 寒冷地・温暖地○ 暖地 $\square$
23.	SL-78 粒 (石原産業)	新規化合物(未) 0.2	- [○] [母]	☐	☐	△ [$\square$] [母]	☐	$\square$ [○] [母]	- [○] [母]	- (混合母剤として○)
24.	SL-781 粒 (石原産業)	SL-78(未) 0.2 キンクロラック(BAS -514) 1	◎	◎	○	○	☐	○	☐	寒地・寒冷地北部◎ 寒冷地南部～温暖地○ 暖地 $\square$
25.	SL-782 粒 (石原産業)	SL-78(未) 0.2 未 公 開 4	○	○	○	☐	☐	☐	☐	寒地・寒冷地○ 温暖地以西 $\square$
26.	SRF フロアブル (昭和ローディア)	オキサジアゾン 12				○		○		温暖地○
27.	TH-597 粒 (武田薬品)	新規化合物(未) 0.5	$\square$ [○] [母]	$\square$ [○] [母]	$\square$ [○] [母]	$\square$ [○] [母]	○	△ [○] [母]	△ [$\square$] [母]	寒地～温暖地東部 $\square$ 温暖地西部以西△ (混合母剤として 寒地～温暖 地○ 暖地 $\square$)
28.	TH-744 粒 (武田薬品)	新規化合物(未) 0.25	$\square$ [○] [母]	○	$\square$ [○] [母]	△ [$\square$] [母]	$\square$ [○] [母]	$\square$ [○] [母]	△ [$\square$] [母]	寒地・寒冷地 $\square$ 温暖地以西△ (混合母剤として 寒地・寒冷 地○ 温暖地・暖地 $\square$)
29.	TH-913 粒 (武田薬品)	新規化合物(未) 0.25	△ [○] [母]	$\square$ [○] [母]	$\square$ [○] [母]	$\square$ [○] [母]	$\square$ [○] [母]	○ ◎ [母]	$\square$ [○] [母]	全域 $\square$ (混合母剤として○)
30.	TJM-354 粒 (東洋曹達・日本カーリ ット)	TSH-888(未) 3.5 JC-940(未) 5 ベンゾフェナップ(MY -71) 4	○	◎	◎	◎	○	$\square$) ○	◎	寒地○ 寒冷地・温暖地東部◎ 温暖地西部以西○
31.	TSM-344 粒	TSH-888(未) 3.5	☐	◎	◎	◎	◎	○	○	寒地 $\square$ 寒冷地・温暖地東部◎

No	薬 剤 名 ・ 剤 型 〔委託会社名〕	有効成分含有率 含 有 率 (%)	試験実施場所別総合評価							中央判定結果概要
			北海道	東北	北陸	関東	近畿	中国	九州	
31.	TSM-344 粒 (つづき) 〔東洋曹達〕	プロモブチド 4 ベンゾフェナップ(MY-71) 4								温暖地西部以西○
32.	PSS 粒 〔日本チバガイギー・三共・住友化学〕	プレチラクロール 1.5 ピラゾレート 4 プロモブチド 4	□	◎	◎	○	◎	◎	○	寒地□ 寒冷地◎ 温暖地以西○
33.	NC-311B① 粒 〔日産化学・BASF〕	NC-311 0.07 キンクロラック(BAS-514) 0.9		◎		◎		◎		-(試験点数不足) =前年NC-311Bとして 全域実施=
34.	SKH-301 粒 〔シエル化学〕	SKH-301(未) 0.3				- [○] [母]			△ [○] [母]	-(試験点数不足)
35.	SKH-8602 粒 〔シエル化学〕	SKH-301(未) 0.3 新規化合物(未) 0.07				◎			△	-(試験点数不足)

注) 上記判定欄の記号については、◎; 極めて有望、○; 有望、□; 可能性あり、△; 再検討、×; 見込みなし、を表わす。

第2表 昭和61年度水稻作関係除草剤適2試験成績判定結果一覧表

区 分	判 定	実	実 ・ 継	継	継?	中止
II-1. 土壌混和处理			<u>SRFフロアブル</u>			
II-2. 移植前後土壌処理			ブタクロール粒, G-315・SK粒, SR-831粒.	JC-513粒.		
II-3. 移植後土壌処理			CG-113D粒, CG-SW①D粒, CG-SW①S粒, CGM-15粒, DPX-84B①粒, DPX-84CG粒, DPX-84CG①粒, DPX-84M粒, DPX-84M①粒, DPX-84SC粒, DPX-84SC①粒, DPX-84T粒, DPX-84T①粒, FSS-115粒, KNW-244粒, KNW-245粒, KNW-246①粒, KSS粒, MSS-148粒, MT-227粒, MT-332粒, MT-CG①D粒, MY-15C①粒, MY-93E粒, MY-93ES粒, NC-311M粒, NTN-804粒, RPJ-841粒, S-276粒, S-473①粒, SL-495粒, SL-496①粒, SL-498粒, SL-498①粒, NC-309粒, MY-613粒, DPX-84A粒, シメトリン粒, プロメトリン粒, NTN-831粒.	BSS粒, CG-155B粒, CG-115B①粒, DPX-84B粒, KH-218粒, NC-311粒, NC-311B①粒, NC-311G粒, NC-311R粒, NSK-850粒, NSK-85M粒, RPJ-842粒, S-485粒, SL-647粒, STS-735粒, TSH-355粒, TSJ-756粒, TS M-344粒.		
II-4. 茎葉兼土壌処理			BAS-514粒, BAS-521粒, YH-455粒.	BAS-521水和, HOK-851粒, NK-60粒.		

区 分	判 定	実	実 ・ 継	継	継 ?	中止
II-5-(1)	適用時期拡大		BAS-3510(Na)㊟液, BAS-521水和, BAS-521粒, DPX-84粒, DPX-84A粒, DPX-84A㊟粒, DPX-84M粒, DPX-84M㊟粒, HOK-05M粒, MSS-148粒, NC-311粒, S-28H粒, MY-71粒.	HOK-851粒.		
II-5-(2)	補正散布			BAS-514粒.		
II-6-(1)	クログワイ対象		DPX-84粒, DPX-84A粒, DPX-84A㊟粒, DPX-84M粒, DPX-84M㊟粒, DPX-845C粒, DPX-85SC㊟粒, DPX-84T㊟粒.	BAS-3510(Na)粒, BAS-3510(Na)液, NC-311粒.		
II-6-(2)	オモダカ対象		BAS-3510(Na)㊟液, DPX-84粒, DPX-84SC粒, DPX-84SC㊟粒, NC-311粒.	HOK-05M粒.		
II-6-(3)	セリ対象		DPX-84A㊟粒, DPX-84M粒, DPX-84M㊟粒, DPX-84T㊟粒, KNW-243粒, KNW-244粒.			
II-6-(5)	シズイ対象	BAS-3510(Na)㊟液, BAS-3510(Na)粒.	BAS-3510(Na)㊟粒, DPX-84A粒, DPX-84M粒, DPX-84T粒.	DPX-84粒, DPX-85SC粒.		
II-6-(6)	エゾノサヤマカグサ対象		BAS-3510(Na)㊟液, DPX-84A粒, DPX-84M粒, DPX-84T粒.	HOK-05M粒.		
II-6-(7)	クサネム対象		HOK-05M粒.			
II-6-(8)	コウキヤガラ対象		DPX-84A㊟粒.	DPX-84粒, DPX-84A粒, DPX-84M粒, DPX-84T粒.		
III-1.	湛水直播		CG-113(改)粒, CG-SW㊟(改)粒, DPX-84M㊟粒, MY-93E粒, SB-77粒, SL-49粒, SL-496㊟(改)粒, SL-708粒, YH-453粒,	HW-61水和, DPX-84M粒.		
III-2.	乾田直播		HW-61水和.			
IV	畦畔雑草		グリホサート液, DDX水和, HOK-15水和, HOK-15㊟細粒, Hoe-866液, MON-8794液, MR-28液, MW-831水溶, SC-224液, YF-65㊟液.			
V	耕起前		グリホサート液, Hoe-866液, MON-8794液, SC-224液, YF-65㊟液.			

区 分	判 定	実	実 ・ 継	継	継 ?	中止
VI 休 耕 田			YF-65①液.			
VII 体系是正 VII-(1) 初期一発処理 剤			DPX-84A①粒, DPX-84M ①粒, S-473①粒, SL-495 粒, SL-496粒, SL-496 ①粒	KSS粒.		
VII-(2) 初・中期一発 処理剤			DPX-84SC①粒, DPX-84 T粒, DPX-84T①粒, FSS -115粒, YH-453粒, NTN -831粒.	BSS粒, NC-311B① 粒, SL-647粒, SL- 781粒.		
VII-(3) 長期持続型一 発処理剤				NH-725粒.		

注: 1) 本年度新規に使用基準の作成されたものは薬剤名にアンダーラインを記した.

2) 本年度は「継?」および「中止」と判定された薬剤はなかった.

第 3 表 昭和61年度水稻作関係除草剤使用基準一覧表

区 分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壤	使用上の注意
II-1. 稚苗土壌混和处理	① <u>S R F</u> <u>フロアブル</u>	土 壤 混 和 処 理	寒冷地, 温 暖地の普通 期	一年生雑草・マツ バイ	植代時整地板前 (-7~-4)	50 ml/a	砂壤土~埴 土(2cm/ 日以下) 〔但し, 温 暖地東部 は砂壤土 を除く.〕	(1) 混和時の水 深3~5cm. (2) 混和深2~ 3cm. (3) 吸着の悪い 土壌(砂壤土, 腐植含量の少 い土壌)では 水の動きの少 い場合は薬害 の発生の危険 があるので十分 注意する.
II-2. 移植前後土壌処理	① ブタクロ ール 粒2.5 (マーシェッ ト2.5)	土 壤 処 理	全域の早期, 普通期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ 〔但し, ホタルイ は寒地・寒冷地 のみ, ヘラオモ ダカは寒地のみ〕	-4, +1~+6 (ノビエ1Lまで). 〔但し, -4は寒 冷地・温暖地東 部普通期・暖地 早期のみ, 暖地 早期は-4, + 0~+6 ホタルイ・ヘラオ モダカ; 発生始ま で.〕	g/a 300~400 〔但し, 田 植前処理 は300の み.〕	砂壤土~埴 土(2cm/ 日以下). 〔但し, 温 暖地西部 以西の早期 は埴土. 〕	(1) ホタルイ多 発田では, ホ タルイに有効 な中後期処理 剤との体系で 使用する.
	② G-315 ・SK 粒 (ソヤロン) <前年通り>	土 壤 処 理	全域の早期, 普通期. 〔但し, 温 暖地西部 の早期は 除く.〕	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ・ク ログワイ. 〔但し, ヘラオモ ダカは温暖地東 部以北のみ, ク ログワイは寒冷 地・温暖地の普 通期のみ.〕	-3~+5(ノビ エ1Lまで). ホタルイ・ヘラオ モダカ; 発生始ま で. クログワイ; +5 (発生前~直後) 〔但し, 温暖地は +5(発生始ま で)〕	300 g/a 〔但し, 寒 冷地のク ログワイ は400.〕	砂壤土~埴 土(2cm/ 日以下). 〔但し, 暖 地の早期 は(1cm /日以下). 温暖地東 部以北・ 暖地普通	(1) 深水処理は さける. (2) クログワイ 防除はクログ ワイに有効な 後期処理剤と 組合せて使用 する.

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II 2. 移植前後土壌処理(つづき)	② G-315・SK粒(つづき)						期は砂壌土を除く。	
	③ SR-831粒	土壌処理	温暖地以北の普通期, 温暖地東部の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ。 〔但し, ミズガヤツリは寒冷地・温暖地の普通期のみ。ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。〕	5~4, +3~+7(ノビエ1Lまで)。 ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生始まで。 〔但し 温暖地のミズガヤツリは発生前のみ。〕	300 g/a	砂壌土~埴土(2cm/日以下)。 〔但し, 寒地の砂壌土は(1.5cm/日以下), 温暖地西部の砂壌土は(1cm/日以下), 寒冷地は砂壌土を除く。〕	(1) 短小苗, 深水条件での使用はさける。
II 3. 移植後土壌処理	① CG-113 D粒(バレージ)	土壌処理	温暖地以北の普通期, 暖地の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し, ミズガヤツリは寒冷地・温暖地のみ, ヘラオモダカは温暖地東部以北のみ。〕	+3~ノビエ1.5Lまで。 ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生始まで。 〔但し, 温暖地東部のミズガヤツリは発生前のみ。〕 アオミドロ・表層剥離; 発生前。 〔但し, 寒地は発生前~始。〕	300 g/a	砂壌土~埴土(2cm/日以下)。 〔但し, 寒地の砂壌土は(1.5cm/日以下), 温暖地西部は埴土~埴土(1cm/日以下), 暖地は埴土~埴土(2cm/日以下)。〕	
	② CG-SW① D粒(クサホープD)	土壌処理	全域の早期, 普通期。 〔但し, 温暖地西部の早期は除く。〕	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・シャジクモ・ウキクサ・表層剥離。 〔但し, ミズガヤツリは寒地を除く。オモダカは寒冷地・暖地普通期のみ。ヘラオモダカは温暖地東部以北のみ, ヒルムシロは普通期のみ, シャジクモは温暖地東部のみ, ウキクサは温暖地西部のみ。〕	+3~ノビエ2Lまで。 〔但し, 寒地・寒冷地はノビエ1.5Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ; 発生始まで。 〔但し, 寒地のホタルイ・ヘラオモダカ, 寒冷地以西のウリカワ, 暖地早期のミズガヤツリは2Lまで。〕 ヒルムシロ; 発生期。 〔但し, 寒地は発生始まで。〕 アオミドロ・シャジクモ・ウキクサ・表層剥離; 発生前。	300 g/a	砂壌土~埴土(2cm/日以下)。 〔但し, 暖地普通期は(1.5cm/日以下), 寒地の砂壌土は(1.5cm/日以下), 暖地早期は砂壌土(0.5cm/日以下), 埴土~埴土(1cm/日以下), 寒冷地のオモダカは砂壌土を除く。〕	(1) 泥炭質土壌ではウリカワに対する効果が低下することがある。 (2) 著しい高温条件下の砂壌土ではクロロシスの発生することがあるので注意する。

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
II 3. 移植後土壌処理(つづき)	② CG-SW① D粒 (つづき)				[但し、寒地のア オミドロ・表層 剥離は発生前～ 始.]			
	③ CG-SW① S粒	土 壌 処 理	寒冷地・温 暖地の普通 期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・ヒ ルムシロ・アオミ ドロ・シャジクモ・ 表層剥離. [但し、オモダカ] は寒冷地のみ. ヘラオモダカは 寒冷地・温暖地 東部のみ. シャ ジクモは温暖地 東部のみ.]	+3～ノビエ2L まで. [但し、寒冷地は] ノビエ1.5Lま で. ホタルイ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ; 発 生始まで. ウリカワ; 2Lま で. ヒルムシロ; 発生 期. アオミドロ・シャ ジクモ・表層剥離 ; 発生前.	300 g/a	砂壤土～埴 土(2cm/ 日以下). [但し、寒 冷地のオ モダカは 砂壤土を 除く.]	(1) 著しい高温 条件下の砂壤 土ではクロロ シスの発生す ることがある ので注意する.
	④ CGM-15 粒 (センチ)	土 壌 処 理	全域の普通 期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ. [但し、ウリカワ・ ミズガヤツリは 暖地のみ. ヘラ オモダカは温暖 地東部以北のみ.]	+3～ノビエ1.5 Lまで. [但し、寒冷地は] +7～ノビエ 1.5Lまで.]	300 g/a	埴土～埴土 (2cm/日 以下). [但し、温 暖地西部 は砂壤土 ～埴土(1 cm/日以下). 暖 地は砂壤 土～埴土 (1.5cm /日以下).]	
	⑤ DPX-84 B①粒	土 壌 処 理	温暖地の普 通期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヒルムシロ. [但し、オモダカ・ ヒルムシロは温 暖地西部のみ.]	+5～ノビエ2.5 Lまで.	300 g/a	埴土～埴土 (2cm/日 以下). [但し、温 暖地西部 は(1cm /日以下).]	
	⑥ DPX-84 CG粒 (ゴルボ25)	土 壌 処 理	寒冷地以北	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・ア オミドロ・表層剥 離. [但し、ウリカワ・ ミズガヤツリ・ オモダカ・アオ ミドロ・表層剥 離は寒冷地のみ.]	+5～ノビエ1.5 Lまで.	300 g/a	埴土～埴土 (2cm/日 以下).	
	⑦ DPX-84 CG①粒 (ゴルボ17)	土 壌 処 理	寒冷地南部 以西の普通 期, 温暖地 東部の早期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・	+5～ノビエ1.5 Lまで.	300 g/a	埴土～埴土 (2cm/日 以下). [但し、温]	

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
II 1.3. 移植後土壌処理 (つづき)	⑦ DPX-84 CG①粒 (つづき)			ヘラオモダカ・ア オミドロ・表層剥 離。 〔但し、オモダカ は温暖地西部の み。ヘラオモダ カは寒冷地南部 のみ。アオミド ロ・表層剥離は 温暖地東部を除 く。〕			暖地西部 以西は(1 cm/日以 下)。	
	⑧ DPX-84 M粒 〔II-6-1④〕 〔II-6-3②〕 〔II-6-5④〕 〔II-6-6③〕 と併用。 (プッシュ25)	土 壌 処 理	全域の早期、 普通期。 〔但し、温 暖地西部 の早期は 除く。〕	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・ク ログワイ・ヒルム シロ・クサネム・ セリ・シズイ・エ ゾノサヤヌカグサ・ アオミドロ・表層 剥離。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く、オモダカ・ クサネムは寒冷 地・温暖地東部 の普通期のみ。 ヘラオモダカ・ ヒルムシロ・ア オミドロ・表層 剥離は寒冷地以 北のみ。クログ ワイは寒冷地・ 暖地のみ。セリ・ シズイは寒冷地 のみ。エゾノサ ヤヌカグサは寒 地のみ。〕	+5〜ノビエ2L まで。 〔但し、寒地はノ ビエ1.5Lまで。 〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 2 Lまで。 オモダカ; 2Lま で。 オモダカ; 発生始 まで。 クログワイ; 発生 期。 〔但し、寒冷地は〕 〔発生始まで。〕 ヒルムシロ; 発生 盛期まで。 〔但し、寒冷地は〕 〔発生始まで。〕 クサネム; 発生前 〜本葉展開期。 セリ; 再生前〜始 シズイ; 草丈2〜 3cmまで。 エゾノサヤヌカグ サ; 1〜4L(草 丈20cm以下)。 アオミドロ・表層 剥離; 発生前。	g/a 300〜400 〔但し、400 はシズイ のみ。〕	砂壤土〜埴 土(2cm/ 日以下)。 〔但し、寒 地・暖地 早期の砂 壤土は (1.5cm /日以下)。 寒冷地・ 温暖地西 部以西の 普通期は 砂壤土を 除く。〕	(1) 著しい多雨 条件では、除 草効果が低下 する場合があ るので使用は さしひかえる。 (2) <u>クログワイ</u> <u>防除は、クロ</u> <u>グワイに有効</u> <u>な後期剤との</u> <u>組み合わせで使</u> <u>用する。</u>
	⑨ DPX-84 M①粒 〔II-6-1⑤〕 〔II-6-3③〕 と併用 (プッシュ17)	土 壌 処 理	全域の早期、 普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・ク ログワイ・ヒルム シロ・セリ・コウ キヤガラ・アオミ ドロ・表層剥離。 〔但し、ウリカワ は温暖地西部の 早期を除く、ミ ズガヤツリは寒 地を除く、オモ ダカは寒冷地・ 温暖地の普通期 のみ。ヘラオモ ダカは寒冷地以 北のみ。クログ	+5〜ノビエ2L まで。 〔但し、寒地・寒 冷地北部はノビ エ1.5Lまで。〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 2 Lまで。 オモダカ; 発生始 まで。 クログワイ; 発生 期。 ヒルムシロ; 発生 期。 〔但し、寒地は発 生盛期まで。寒 冷地は発生始期 まで。〕	g/a 300〜400 〔但し、寒 地・暖地 は300の み。〕	砂壤土〜埴 土(2cm/ 日以下)。 〔但し、寒 地・温暖 地西部普 通期の砂 壤土は (1.5cm /日以下)。 暖地早期 の砂壤土 (1cm/ 日以下)。 寒冷地・ 温暖地西 部早期は 砂壤土を 除く。〕	(1) 著しい多雨 条件では、除 草効果が低下 する場合があ るので使用は さしひかえる。 (2) <u>クログワイ</u> <u>防除は、クロ</u> <u>グワイに有効</u> <u>な後期剤との</u> <u>組み合わせで使</u> <u>用する。</u>

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用草種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 1. 移植後土壌処理（つづき）	⑨ DPX-84 M① 粒 (つづき)			ワイは暖地のみ、ヒルムシロは温暖地以北の普通期・温暖地東部の早期のみ。セリは寒冷地以西の普通期のみ。コウキヤガラは暖地早期のみ。アオミドロは寒地・寒冷地・温暖地西部の普通期のみ。表層剥離は寒地・寒冷地・温暖地西部の早期のみ。	セリ；再生前～始まで。 コウキヤガラ；発生始～盛期まで。 アオミドロ；表層剥離；発生前。			
	⑩ DPX-84 SC 粒 〔Ⅱ-6-1⑥〕 〔Ⅱ-6-2③〕 と併用 (フジグラス 2.5)	土 壌 処 理	全域の早期、普通期。 〔但し、温暖地西部の早期を除く。〕	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・クログワイ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ホタルイは暖地の早期を除く。ウリカワは暖地を除く。ミズガヤツリは寒地を除く。オモダカは寒冷地・温暖地東部のみ。ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。クログワイ・アオミドロ・表層剥離は寒冷地のみ。ヒルムシロは暖地を除く。〕	+5～ノビエ2.5 Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ；2 Lまで。 ミズガヤツリ；2 Lまで。 〔但し、暖地は3 Lまで。〕 オモダカ；3 Lまで。 〔但し、寒冷地は2 Lまで。温暖地東部の早期は発生始まで。〕 クログワイ・アオミドロ・表層剥離；発生始まで。 ヒルムシロ；発生期。 〔但し、寒地は発生始まで。〕	300 g/a	壤土～埴土（2 cm/日以下）。 〔但し、温暖地西部は（1 cm/日以下）。〕	(1) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる。 (2) <u>クログワイ防除は、クログワイに有効な後期剤との組み合わせで使用する。</u>
	⑪ DPX-84 SC① 粒 〔Ⅱ-6-1⑦〕 〔Ⅱ-6-2④〕 と併用 (フジグラス 1.7)	土 壌 処 理	寒冷地南部以西の早期、普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・クログワイ・ヒルムシロ。 〔但し、ホタルイは暖地の早期を除く。ウリカワは温暖地東部の早期を除く。ミズガヤツリは暖地の普通期を除く。オモダカは寒冷地南部・温暖地東部の普通期のみ。クログワイは寒冷地南部のみ。ヒルムシロは寒冷地南部・温暖地西部の普通期のみ。〕	+5～ノビエ2.5 Lまで。 〔但し、温暖地西部の早期はノビエ2 Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ；2 Lまで。 〔但し、暖地早期のミズガヤツリは3 Lまで。〕 オモダカ；3 Lまで。 〔但し、寒冷地南部は2 Lまで。〕 クログワイ；発生始まで。 ヒルムシロ；発生始まで。 〔但し、温暖地西部の普通期は発生期まで。〕	g/a 300～400 〔但し、400はクログワイのみ。〕	砂埴土～埴土（2 cm/日以下）。 〔但し、温暖地西部の普通期は（1 cm/日以下）。寒冷地南部・暖地および温暖地東部の普通期のオモダカは砂埴土を除く。温暖地西部の早期は埴土～埴土（1 cm/日以下）。〕	(1) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合があるので使用はさしひかえる。 (2) <u>クログワイ防除は、クログワイに有効な後期剤との組み合わせで使用する。</u>

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
Ⅱ 3. 移 植 後 土 壌 処 理 (つづき)	⑫ DPX-84 T 粒 〔Ⅱ-6-5⑤〕 〔Ⅱ-6-6④〕 と併用 (ザーク25)	土 壌 処 理	温暖地東部 以北の早期、 普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・ク ログワイ・ヒルム シロ・エゾノサヤ ヌカグサ・シズイ・ アオミドロ・表層 剥離。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く、オモダカは 温暖地東部のみ。 ヘラオモダカ・ アオミドロ・表 層剥離は寒冷地 以北のみ。クロ グワイは寒冷地・ 温暖地東部の普 通期のみ。エゾ ノサヤヌカグサ は寒地のみ。シ ズイは寒冷地の み。〕	+5〜ノビエ2.5 Lまで。 〔但し、寒地はノ ビエ2Lまで。〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 2 Lまで。 オモダカ; 発生始 〜盛期。 クログワイ; 発生 前〜発生期。 ヒルムシロ; 発生 期。 〔但し、寒地は発 生始まで。〕 エゾノサヤヌカグ サ; 1〜4L(草 丈20cm以下)。 シズイ; 草丈2〜 3cmまで。 アオミドロ・表層 剥離; 寒地は発生 前〜始、寒冷地 は発生始まで。	300 g/a	壤土〜埴土 (2cm/日 以下)。 〔但し、寒 地は砂壤 土(1.5 cm/日以 下)を含 む。〕	(1) 植付精度不 良で、根が露 出する水田で は使用しない。 (2) 著しい多雨 条件では、除 草効果が低下 する場合がある ので、使用 はさしひかえ る。 (3) <u>クログワイ</u> <u>防除はクログ</u> <u>ワイに有効な</u> <u>後期剤との組</u> <u>み合せて使用</u> <u>する。</u>
	⑬ DPX-84 T①粒 〔Ⅱ-6-1⑧〕 〔Ⅱ-6-3④〕 と併用 (ザーク17)	土 壌 処 理	全域の早期、 普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・ク ログワイ・ヒルム シロ・セリ・アオ ミドロ・表層剥離。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く、オモダカは 温暖地西部のみ。 ヘラオモダカは 寒冷地以北のみ。 クログワイは暖 地の早期のみ。 ヒルムシロは暖 地を除く。セリ は温暖地のみ。 アオミドロは寒 地・温暖地西部 のみ。表層剥離 は寒地と温暖地 西部の早期のみ。〕	+5〜ノビエ2.5 Lまで。 〔但し、寒地・暖 地普通期はノビ エ2Lまで。温 暖地西部普通期・ 暖地早期はノビ エ3Lまで。〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ オモダカ・ヘラオ モダカ; 2Lまで。 〔但し、暖地早期 のウリカワは3 Lまで。〕 クログワイ・ヒル ムシロ; 発生期ま で。 〔但し、寒地のヒ ルムシロは発生 始まで。〕 セリ; 再生前〜始 まで。 アオミドロ・表層 剥離; 発生前。 〔但し、寒地は発 生前〜始まで。〕	300 g/a	砂壤土〜埴 土(2cm/日 以下)。 〔但し、暖 地は(1.5 cm/日以 下)。寒 地の砂壤 土は(1.5 cm/日以 下)。寒 冷地・温 暖地西部 は砂壤土 を除く。 温暖地西 部早期は 埴土〜埴 土(1cm /日以下)。	(1) 植付精度不 良で、根が露 出する水田で は使用しない。 (2) 著しい多雨 条件では除草 効果が低下す る場合がある ので使用はさ しひかえる。 (3) <u>クログワイ</u> <u>防除はクログ</u> <u>ワイに有効な</u> <u>後期剤との組</u> <u>み合せて使用</u> <u>する。</u>
	⑭ FSS-115 粒 (リードゾン)	土 壌 処 理	全域の早期、 普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地と暖 地の普通期は除	+5〜ノビエ3L まで。 〔但し、寒地はノ ビエ2Lまで。 寒冷地・温暖地 はノビエ2.5L まで。〕 ホタルイ・ウリカ	300 g/a	埴土〜埴土 (2cm/日 以下)。 〔但し、温 暖地西部 の早期は (1cm/ 日以下)。	(1) 泥炭質土壌 では、ウリカ ワに対する効 果が低下する ことがある。 (2) 著しい高温 条件下の砂壤 土水田では、

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 3. 移植後土壌処理 (つづき)	⑭ FSS-115 粒 (つづき)	土壌処理	全域の早期、普通期。	く、ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。ヒルムシロは寒冷地以北・温暖地西部以西の普通期のみ。	ワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2 Lまで。 ヒルムシロ; 発生期。		暖地の早期は砂壌土～埴土(1.5 cm/日以下)。暖地の普通期は砂壌土～埴土(1 cm/日以下)。	クロロシスの発生することがあるので注意すること。 (3) 植付精度不良で根が露出する水田では使用しない。
	⑮ KNW-244 粒 (Ⅱ-6-3⑥と併用)	土壌処理	全域の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・セリ。 〔但し、ミズガヤツリは寒冷地・温暖地東部のみ。ヘラオモダカは寒地のみ。セリは寒冷地・温暖地のみ。〕	+3～+7(ノビエ1 Lまで)。 〔但し、温暖地西部以西は+3～+5(ノビエ1 Lまで)。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生始まで。 セリ; 再生前～始。	g/a 300～400 〔但し、温暖地西部以西は300のみ。〕	埴土～埴土(2 cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部以西は(1.5 cm/日以下)〕	
	⑯ KNW-245 粒	土壌処理	温暖地以北の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ・セリ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ウリカワは温暖地東部を除く。ヘラオモダカは寒地のみ。セリは寒冷地のみ。〕	+3～ノビエ1.5 Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・セリ; 発生始まで。 〔但し、寒地のホタルイは2 Lまで。〕 ヘラオモダカ; 2 Lまで。 アオミドロ・表層剥離; 発生前。 〔但し、寒地は発生前～始。〕	300 g/a	埴土～埴土(2 cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部は埴土～埴土(1 cm/日以下)〕	
	⑰ KNW-246 ①粒	土壌処理	温暖地東部の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ。	+3～ノビエ1.5 Lまで。 ホタルイ; 発生始まで。 ウリカワ; 1 Lまで。	300 g/a	埴土～埴土(2 cm/日以下)。	
	⑱ KSS 粒 (リワード)	土壌処理	寒冷地以西の早期、普通期。 〔但し、温暖地東部の早期は除く。〕	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ。 〔但し、ミズガヤツリは寒冷地を除く。〕	+3～ノビエ1.5 Lまで。 ホタルイ; 発生始まで。 〔但し、温暖地西部は2 Lまで。〕 ウリカワ・ミズガヤツリ; 1 Lまで。 〔但し、寒冷地のウリカワは発生始まで。〕	300 g/a	埴土～埴土(2 cm/日以下)。 〔但し、暖地普通期は(1.5 cm/日以下)。温暖地西部の早期は埴土～埴土(1 cm/日以下)。温暖地西部の普通期は砂壌土～埴土(1 cm/日以下)。暖地の早期は砂壌土～埴土(1.5 cm/日以下)〕	

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用草種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
II ― 3. 移植後土壌処理（つつき）	①⑨ MSS-148 粒 (ピリカーナ)	土 壌 処 理	温暖地西部 以西の早期 普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ。	+5～ノビエ2L まで。 ホタルイ; 2Lま で。 〔但し、暖地は発 生始まで。〕	300 g/a	砂壌土～埴 土(2cm/ 日以下)。 〔但し、温 暖地西部 の早期は 埴壌土～ 埴土(1 cm/日以 下)。温 暖地西部 の普通期 は埴土～ 埴土(1 cm/日以 下)〕。	(1) 広葉多発田 では使用はさ ける。
	②⑩ MT-227 粒	土 壌 処 理	温暖地以北 の普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く。オモダカは 温暖地西部のみ、 ヘラオモダカは 寒冷地以北のみ〕	+3～ノビエ1.5 Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ オモダカ・ヘラオ モダカ; 発生始ま で。 〔但し、温暖地西 部のホタルイは 2Lまで、温暖 地東部のウリカ ワは1Lまで。〕	300 g/a	埴土～埴土 (2cm/日 以下)。	(1) 深水での処 理はさける。
	②⑪ MT-332 粒	土 壌 処 理	寒冷地	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ミズガヤツリ・ヘ ラオモダカ。	+5～ノビエ1.5 Lまで。 ホタルイ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ; 発生始まで。	300 g/a	埴土～埴土 (2cm/日 以下)。	
	②⑫ MT-CG ①D粒 (ヨートルD)	土 壌 処 理	全域の普通 期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・アオミドロ・ 表層剥離。 〔但し、ウリカワ は寒地・暖地の 普通期のみ、ミ ズガヤツリは寒 冷地・温暖地の み、ヘラオモダ カは寒冷地以北 のみ。〕	+3～ノビエ1.5 Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 〔但し、温暖地西 部以西のウリカ ワは発生始まで。 ミズガヤツリ; 発 生始まで。 アオミドロ・表層 剥離; 発生前。 〔但し、寒地は発 生前～始まで。〕	300 g/a	砂壌土～埴 土(2cm/ 日以下)。 〔但し、暖 地は(1.5 cm/日以 下)。寒 地の砂壌 土は(1.5 /日以下)。 寒冷地・ 温暖地西 部の砂壌 土は(1 cm/日以 下)。温 暖地東部 は砂壌土 を除く。〕	
	②⑬ MY-15C ①粒	土 壌 処 理	全域の普通 期、温暖地 東部の早期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ヘラオモダカ。 〔但し、ヘラオモ ダカは実地のみ〕	+3～ノビエ1.5 Lまで。 ホタルイ; 発生始 まで。 〔但し、寒地は2 Lまで、温暖地	300 g/a	埴土～埴土 (2cm/日 以下)。 〔但し、温 暖地西部 は(1.5	

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
II 1. 移植後土壌処理 (つづき)	㉓ MY-15C ①粒 (つづき)				東部は1.5 Lまで。 ヘラオモダカ; 2 Lまで。		cm/日以下)。寒地は砂壤土(1.5 cm/日以下)を含む。暖地は砂壤土～埴土(1 cm/日以下)。	
	㉔ MY-93E 粒 (ノラミット)	土 壌 処 理	温暖地以西の早期, 普通期。 但し, 温暖地東部の早期は除く。	一年生雑草・マツバイ・ウリカワ・ヒルムシロ。 〔但し, マツバイは温暖地西部の普通期と暖地のみ, ヒルムシロは普通期のみ。〕	+0～ノビエ 1.5 Lまで。 〔但し, 温暖地東部の普通期と温暖地西部の早期は+0～+5 (ノビエ 1 Lまで)。 ホタルイ; 発生始まで。 〔但し, 温暖地西部は2 Lまで。〕 ヒルムシロ; 発生始まで。	300 g/a 〔但し, 温暖地西部以西の普通期は300～400〕	砂壤土～埴土(1.5 cm/日以下)。 〔但し, 温暖地東部は(2 cm/日以下)。温暖地西部の早期は埴壤土(1 cm/日以下)〕。	
	㉕ MY-93E S粒	土 壌 処 理	温暖地西部以西の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヒルムシロ。 〔但し, オモダカは温暖地西部のみ。〕	+1～ノビエ 1.5 Lまで。 ホタルイ; 2 Lまで。 〔但し, 暖地は発生始まで。〕 ウリカワ; 2 Lまで。 〔但し, 暖地は1 Lまで。〕 ミズガヤツリ; 発生前。 〔但し, 暖地は発生始まで。〕 オモダカ; 発生前。 ヒルムシロ; 発生期。 〔但し, 暖地は発生始まで。〕	300 g/a	砂壤土～埴土(1.5 cm/日以下)。 〔但し, 温暖地西部は埴土～埴土(1 cm/日以下)〕。	
	㉖ NC-311 M粒	土 壌 処 理	寒冷地以西の普通期, 温暖地東部の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ。 〔但し, ウリカワは暖地を除く, ミズガヤツリは温暖地以西のみ。ヘラオモダカは寒冷地のみ。〕	+5～ノビエ 1.5 Lまで。 〔但し, 暖地は+2～ノビエ 1.5 Lまで。〕 ホタルイ; 発生始まで。 〔但し, 温暖地西部は2 Lまで。〕 ウリカワ; 2 Lまで。 〔但し, 寒冷地は発生始まで。温暖地東部は1 Lまで。〕	300 g/a	砂壤土～埴土(2 cm/日以下)。 〔但し, 暖地は(1.5 cm/日以下)。寒冷地は砂壤土を除く, 温暖地西部は埴土～埴土(1 cm/日以下)〕。	

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
II 3. 移植後土壌処理（つづき）	②⑥ NC-311 M粒 (つづき)				ミズガヤツリ; 2 L まで。 〔但し、温暖地東部は 1 L まで、暖地は発生始まで。〕 ヘラオモダカ; 発生始まで。			
	②⑦ NTN-804 粒 (クロアベスト)	土壌処理	寒冷地以西の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ。 〔但し、ホタルイは寒冷地・温暖地西部のみ。ミズガヤツリは温暖地以西のみ。ヘラオモダカは寒冷地のみ。〕	+ 5 ~ ノビエ 3 L まで。 〔但し、寒冷地・温暖地東部はノビエ 2.5 L まで。〕 ホタルイ; 3 L まで。 〔但し、温暖地西部は発生始まで。〕 ウリカワ; 3 L まで。 〔但し、温暖地以西は 2 L まで。〕 ミズガヤツリ; 1 L まで。 ヘラオモダカ; 3 L まで。	g/a 300 ~ 400 〔但し、寒冷地・暖地は 300 のみ。〕	砂壤土 ~ 埴土 (2 cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部の砂壤土は (1 cm/日以下)。 温暖地東部・暖地は砂壤土を除く。〕	
	②⑧ RPJ-841 粒	土壌処理	寒冷地、温暖地西部の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ。	+ 3 ~ ノビエ 1 L まで。 ホタルイ・ウリカワ; 発生始まで。	300 g/a	埴土 ~ 埴土 (2 cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部は (1 cm/日以下)〕	
	②⑨ S-276 粒	土壌処理	寒地、寒冷地、温暖地東部の早期。	一年生雑草、マツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ。 〔但し、ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。〕	+ 3 ~ ノビエ 1.5 L まで。 ホタルイ・ヘラオモダカ; 発生始まで。 〔但し、温暖地東部のホタルイは 2 L まで。〕	300 g/a	埴土 ~ 埴土 (2 cm/日以下)。	(1) 深水での処理はさける。
	③⑩ S-473 ① 粒 (サリオ)	土壌処理	全域の早期、普通期。	一年生雑草、マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く、ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。ヒルムシロは温暖地以北の普通期・温暖地東部の早期のみ。〕	+ 3 ~ ノビエ 1.5 L まで。 〔但し、温暖地東部の普通期は + 1 ~ ノビエ 1.5 L まで。暖地の早期は + 3 ~ ノビエ 1 L まで。〕 ホタルイ・ウリカワ; 2 L まで。 〔但し、寒地・寒冷地・暖地早期は発生始まで。〕 ミズガヤツリ; 2 L まで。 〔但し、寒冷地・温暖地東部・暖地早期は発生始	300 g/a	砂壤土 ~ 埴土 (2 cm/日以下)。 〔但し、暖地早期は (1.5 cm/日以下)。 寒地・温暖地西部の普通期の砂壤土は (1.5 cm/日以下)。 寒冷地は砂壤土を除く。温暖地西部の早期は	(1) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。 (2) 著しい高温条件下の砂壤土水田ではクロロシスの発生するので注意する。

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
II 1.3. 移植後土壌処理(つづき)	㊹ S-473① 粒 (つづき)				まで。 ヘラオモダガ; 発生始まで。 ヒルムシロ; 発生期。 〔但し、寒地・温暖地西部は発生始まで。〕		〔壌土～埴土(1cm/日以下)。〕	
	㊹ SL-495 粒 (ノックワン)	土壌処理	全域の早期、普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダガ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤツリは寒地・温暖地西部普通期・暖地早期のみ。ヘラオモダガは寒地・寒地・温暖地西部普通期のみ。ヒルムシロは寒地・温暖地西部・暖地普通期のみ。〕	+1～ノビエ1.5Lまで。 〔但し、寒地は+1～+10(ノビエ1Lまで)。寒地は+3～+10(ノビエ1Lまで)。温暖地は+3～ノビエ1.5Lまで。〕 ホタルイ・ヘラオモダガ; 2Lまで。 〔但し、寒地以北は発生始まで。〕 ウリカワ; 2Lまで。 〔但し、寒地以北は1Lまで。〕 ミズガヤツリ; 2Lまで。 ヒルムシロ; 発生期。	300 g/a 〔但し、温暖地東部は300～400。〕	砂壌土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、暖地早期は(1.5cm/日以下)。寒地の砂壌土は(1.5cm/日以下)。寒地・温暖地東部は砂壌土を除く。温暖地西部の早期は埴壤土(1cm/日以下)。暖地普通期は埴土～埴土(1.5cm/日以下)。〕	(1) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。 (2) 著しい高温条件下の砂壌土水田ではクロロシスの発生するので注意する。
	㊹ SL-496 ①粒 (ワンオール)	土壌処理	全域の早期、普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダガ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダガは温暖地東部以北のみ。ヒルムシロは温暖地西部以西の早期を除く。〕	+0～ノビエ2Lまで。 〔但し、寒地は+3～ノビエ1.5Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダガ; 2Lまで。 〔但し、寒地は発生始まで。〕 ミズガヤツリ; 発生始まで。 〔但し、暖地早期は2Lまで。〕 ヒルムシロ; 発生期。	g/a 300～400 〔但し、+0～+2は300のみ。〕	砂壌土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、暖地早期の砂壌土は(1cm/日以下)。寒地・寒地・温暖地西部の普通期は砂壌土を除く。温暖地西部の早期は埴壤土(1cm/日以下)。暖地普通期は砂壌土(1cm/日以下)。埴土～埴土(1.5cm/日以下)。〕	(1) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。 (2) 著しい高温条件下の砂壌土水田ではクロロシスの発生するので注意する。

区分	薬 剤 名	処理	適用土壌	適用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ ― 3. 移植後土壌処理(つづき)	㉓ SL-498 粒	土 壌 処 理	寒冷地以西の普通期、温暖地東部の <u>早期</u> 。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ <u>ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ</u> ・表層剥離。 〔但し、ミズガヤツリは暖地を除く、ヘラオモダカは寒冷地のみ、ヒルムシロは温暖地東部の早期を除く。ウキクサは温暖地東部の普通期のみ。アオミドロ・表層剥離は温暖地東部の普通期を除く。〕	+3～ノビエ2Lまで。 〔但し、寒冷地はノビエ1.5Lまで。〕 ホタルイ; 2Lまで。 〔但し、寒冷地は発生始まで。〕 ウリカワ; 2Lまで。 〔但し、暖地普通期は発生始まで。〕 ミズガヤツリ; 発生始まで。 〔但し、寒冷地は2Lまで。〕 ヘラオモダカ; 2Lまで。 ヒルムシロ・ウキクサ; 発生期。 アオミドロ・表層剥離; 発生前。	300 g/a	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部以西は(1.5cm/日以下)。寒冷地は砂壤土を除く。〕	(1) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。 (2) 著しい高温条件下の砂壤土水田ではクロロシスの発生するので注意する。 (3) <u>トリアジン系除草剤の使用上の注意</u> を守る。
	㉔ SL-498 ㊸粒	土 壌 処 理	寒 地	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離。	+3～ノビエ1.5Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離; <u>発生始まで</u>	300 g/a	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、砂壤土は(1.5cm/日以下)。〕	(1) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。 (2) 著しい高温条件下の砂壤土水田ではクロロシスの発生するので注意する。
	㉕ NC-309 粒	土 壌 処 理	温暖地以北の普通期、温暖地西部以西の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ <u>ミズガヤツリ・ヘラオモダカ</u> 。 〔但し、ミズガヤツリは寒冷地のみ。ヘラオモダカは寒地・温暖地東部のみ。〕	+3～ノビエ1.5Lまで。 〔但し、寒冷地・温暖地西部は+3～+7(ノビエ1Lまで)。〕 暖地早期は+3～+5(ノビエ1Lまで)。 ホタルイ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 発生始まで。 〔但し、温暖地西部普通期のホタルイは発生前。〕	300 g/a	砂壤土～埴土(2cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部普通期・暖地早期は(1.5cm/日以下)。寒地の砂壤土は(1.5cm/日以下)。寒冷地は砂壤土を除く。温暖地西部の早期は埴土(1cm/日以下)。〕	(1) 短小苗、深水条件での使用はさける。
	㉖ MY-613 粒	土 壌 処 理	寒冷地・温暖地東部の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ホタルイ・	+3～+7(ノビエ1Lまで)。 ホタルイ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ; 発生前。 ウリカワ; 発生始	300 g/a	埴土～埴土(2cm/日以下)。	

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
Ⅱ 1. 移植後土壌処理（つづき）	⑤ MY-613 粒 (つづき)			ウリカワ・ヒルムシロは温暖地東部のみ。ヘラオモダカは寒冷地のみ。	まで。			
	⑦ DPX-84 A粒 (Ⅱ-6-1 ② Ⅱ-6-5 ③ Ⅱ-6-6 ② と併用 (ウルフ25))	土壌処理	全域の普通期、温暖地東部の早期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・クログワイ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・シズイ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く、オモダカは寒地・温暖地東部普通期のみ、ヘラオモダカ・アオミドロ・表層剥離は寒地以北のみ、クログワイ・シズイは寒冷地のみ、ヒルムシロは寒地・寒冷地・温暖地西部のみ、エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。〕	+5～ノビエ2Lまで。 〔但し、寒地はノビエ1.5Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ；2Lまで。 オモダカ・クログワイ・ヒルムシロ；発生始まで。 エゾノサヤヌカグサ；1～4L（草丈20cm以下）。 シズイ；草丈2～3cmまで。 アオミドロ・表層剥離；発生前。	g/a 300～400 〔但し、400はシズイのみ。〕	壤土～埴土（2cm/日以下）。 〔但し、暖地は埴土～埴土（2cm/日以下）。〕	(1) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合がありますので使用はさしひかえる。 (2) <u>クログワイ防除は、クログワイに有効な後期剤との組み合わせで使用する。</u>
	⑧ シメトリン 粒	土壌処理	暖地の普通期。	アオミドロ・表層剥離。	+5～+8 アオミドロ・表層剥離；発生期。	100 g/a	砂壤土～埴土（1.5cm/日以下）。	(1) 初期剤との混用または体系処理で使用する。 (2) トリアジン系除草剤の使用上の注意を守る。
	⑨ プロメトリ ン粒	土壌処理	寒 冷 地	アオミドロ・表層剥離。	+3～+7 アオミドロ・表層剥離；発生始。	30～50 g/a	砂壤土～埴土。	(1) 初期剤との混用または体系処理で使用する。
	⑩ NTN-831 粒 (シンザン)	土壌処理	全域の早期、普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ウリカワは温暖地東部早期・温暖地西部普通期・暖地早期を除く、ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。ヒルムシロは寒地・	+5～ノビエ2.5Lまで。 〔但し、寒地と温暖地以西の早期はノビエ2Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ；2Lまで。 ミズガヤツリ；2Lまで。 〔但し、温暖地西部は発生始まで。〕 ヒルムシロ；発生期。	g/a 300～400 〔但し、温暖地の早期と暖地は300のみ。〕	壤土～埴土（2cm/日以下）。 〔但し、温暖地西部の早期は（1cm/日以下）。暖地の普通期は（1.5cm/日以下）。暖地の早期は砂壤土（2cm	(1) 植付精度不良で、根が露出する水田では使用しない。

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
Ⅱ 3.	④ NTN-831 粒 (つづき)			〔寒冷地・暖地普 通期のみ。〕	〔但し、寒冷地は〕 発生始まで。〕		〔/日以下。〕 を含む。〕	
Ⅱ 4. 茎葉兼土壌処理	① BAS-514 粒	茎葉兼土壌処理	寒 地	ノビエ	+ 20 ~ + 30 ノビエ; 3 L まで。	g/a 300 ~ 400	砂壤土 ~ 埴 土 (2 cm/ 日以下)。 〔但し、砂 壤土は (1.5 cm /日以下)〕	(1) ノビエ以外 の草種に有効 な薬剤と組み 合わせて使用 する。
	② BAS-521 粒	茎葉兼土壌処理	寒地、温暖 地東部の普 通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・エ ゾノサヤヌカグサ・ セリ。 〔但し、ミズガヤ ツリ・オモダカ・ セリは温暖地東 部のみ。ヘラオ モダカ・エゾノ サヤヌカグサは 寒地のみ。〕	+ 20 ~ + 30 ノビエ 2 ~ 3 L (寒地)。ノビ エ 2.5 ~ 3.5 L (温暖地東部)。 ホタルイ・ウリカ ワ; 3.5 L まで。 〔但し、寒地は 4 L まで。〕 ミズガヤツリ・ヘ ラオモダカ; 3 L まで。 オモダカ; 1.5 L まで。 エゾノサヤヌカグ サ; 1 ~ 4 L (草 丈 20 cm 以下)。 セリ; 生育初期ま で。	300 g/a	埴土 ~ 埴土 (2 cm/日 以下)。	(1) 落水または 浅水で使用する。 (2) 処理後の灌 水は 48 ~ 72 時 間経過後に行 なう。 (3) 著しい多雨 条件では、除 草効果が低下 する場合があ るので使用は さしひかえる。
	③ YH-455 粒	茎葉兼土壌処理	全域の早期、 温暖地以北 の普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く。ヘラオモダ カは寒冷地以北 のみ。ヒルムシ ロは普通期と温 暖地西部の早期 のみ。〕	+ 10 ~ ノビエ 2.5 L まで。 〔但し、寒地はノ ビエ 2 L まで。〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ; 2 L まで。 ヘラオモダカ; 3 L まで。 〔但し、寒地は 2 L まで。〕 ヒルムシロ; 発生 期。	g/a 300 ~ 400 〔但し、寒 地および 早期は 300 のみ。〕	砂壤土 ~ 埴 土 (2 cm/ 日以下)。 〔但し、温 暖地西部 の普通期 は (1 cm /日以下)。 暖地早期 は (1.5 cm/日以 下)。寒 地の砂壤 土は (1.5 cm/日以 下)。寒 冷地は砂 壤土を除 く。温暖 地西部の 早期は埴 土 ~ 埴土 (1 cm/ 日以下)〕	(1) トリアジン 系除草剤の使用 上の注意を 守る。 (2) 泥炭質土壌 では、ウリカ ワに対する効 果が低下する ことがある。 (3) 著しい高温 条件下の砂埴 土水田ではク ロロシスの発 生するので注意 する。
Ⅱ 5 (1)	① BAS-3510 (Na) ① 液 〔Ⅱ-6-2 ① Ⅱ-6-5 ① Ⅱ-6-6 ① と併用〕	茎葉 処理	全域の早期、 普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・エ	田植前後土壌処理 した場合。 + 25 ~ + 30 〔但し、温暖地東 部の早期とオモ	m/a 50 ~ 70	全 土 壌	(1) 前処理剤と の組み合わせで 使用する。 (2) 落水もしく は浅水で使用

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適用草種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
II 5 1) 適用時期拡大(つづき)	① BAS-3510 (Na) ①液 (つづき)			ゾノサヤヌカグサ・シズイ。 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く。オモダカは温暖地東部の普通期のみ。ヘラオモダカは寒冷地以北と温暖地西部のみ。エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。シズイは寒冷地のみ。〕	ダカは+30～+40。 一年生非イネ科；生育期。 ホタルイ；発生盛期～増殖中期。 〔但し、寒地は発生盛期～花茎抽出期，寒冷地・暖地早期は発生盛期～増殖初期。〕 ウリカワ・ミズガヤツリ；発生盛期～増殖中期。 〔但し、寒冷地以北では発生盛期～増殖初期。〕 オモダカ；5～6 L期，矢じり葉4枚まで。 ヘラオモダカ；発生盛期～増殖初期。 エゾノサヤヌカグサ；1～4 Lまで（草丈20 cm以下）。 シズイ；草丈10～30 cm以下。			する。 (3) 処理後の灌水は48～72時間経過後に行なう。 (4) 散布は水稲になるべくかからないようにする。 (5) 処理後2日以内に降雨が予想される場合は使用をさしひかえる。
	② BAS-521 水和	茎葉兼土壌処理	温暖地西部以西の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・セリ。 〔但し、セリは暖地のみ。〕	田植前後土壌処理した場合。 +25～+40。 ノビエ；5 Lまで。 ホタルイ；花茎抽出開始まで。 ウリカワ；6 Lまで。 ミズガヤツリ；5 Lまで。 セリ；生育期。	50 g/a	壤土～埴土（1 cm/日以下）。 〔但し、暖地は埴壤土～埴土（2 cm/日以下）。〕	(1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 (2) 落水もしくは浅水で使用する。 (3) 散布は水稲になるべくかからないようにする。
	③ BAS-521 粒	茎葉兼土壌処理	寒地，温暖地以西の普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・エゾノサヤヌカグサ・セリ。 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く。オモダカは温暖地東部のみ。ヘラオモダカ・エゾノサヤヌカグサは寒地のみ。セリは温暖地東部と暖地のみ。〕	田植前後土壌処理した場合。 +20～+35。 ノビエ；3.5 Lまで。 〔但し、寒地は3 Lまで。〕 ホタルイ；4 Lまで。 〔但し、温暖地西部以西は花茎抽出開始まで。〕 ウリカワ・ミズガヤツリ；4 Lまで。 〔但し、暖地は5 Lまで。〕 オモダカ；矢じり葉2枚まで。 ヘラオモダカ；3 Lまで。	300 g/a	埴土～埴土（2 cm/日以下）。 〔但し、温暖地西部は（1 cm/日以下）。暖地は埴壤土～埴土（2 cm/日以下）。〕	(1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 (2) 落水もしくは浅水で使用する。 (3) 処理後の灌水は48～72時間経過後に行なう。 (4) 処理後2日以内に降雨が予想される場合は使用をさしひかえる。

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
II 5 (1)	③ BAS-521 粒 (つづき)				エゾノサヤヌカグサ; 1~4Lまで。 (草丈20cm以下)。 セリ; 発生盛期~増殖初期。			
適用時期拡大(つづき)	④ DPX-84 粒 (II-6-1①) (II-6-2②) と併用	土 壌 処 理	温暖地東部以北の早期、普通期。 〔但し、温暖地東部の普通期は低温時移植地帯に限る。〕	一年生非イネ科・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・オモダカ・ヘラオモダカ・クログワイ・ヒルムシロ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ミズガヤツリ・オモダカは寒地を除く。ヘラオモダカ・アオミドロ・表層剥離は寒地のみ。クログワイは寒冷地のみ。ヒルムシロは寒冷地を除く。〕	田植前後土壌処理した場合。 +15~+20。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 オモダカ; 発生前。 〔但し、寒冷地は〕 〔発生始まで。クログワイ; 発生始まで。 +5~+20(単用)または+5~+25(2回処理)。 ヒルムシロ; 発生前。 〔但し、寒地は発〕 〔生始まで。アオミドロ・表層剥離; 発生前~始まで。〕	300 g/a	壤土~埴土(2cm/日以下)。 〔但し、寒地は砂壤土(1.5cm/日以下)を含む。〕	(1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 (2) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合があるので、使用はさしひかえる。 (3) クログワイ防除はクログワイに有効な後期剤との組み合わせで使用する。
	⑤ DPX-84 A粒 (ウルフ25)	土 壌 処 理	寒地、寒冷地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・クログワイ・ヒルムシロ・エゾノサヤヌカグサ・シズイ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ミズガヤツリ・クログワイ・シズイは寒冷地のみ。エゾノサヤヌカグサ・アオミドロ・表層剥離は寒地のみ。〕	田植前後土壌処理した場合。 +15~+20ノビエ; 2Lまで。 〔但し、寒地は〕 〔1.5Lまで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 クログワイ; 発生期。 ヒルムシロ; 発生期。 〔但し、寒地は発〕 〔生始まで。エゾノサヤヌカグサ; 1~4Lまで。 (草丈20cm以下)。 シズイ; 草丈2~3cm以下。 アオミドロ・表層剥離; 発生前~始。	300 g/a	壤土~埴土(2cm/日以下)。	(1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 (2) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合があるので、使用はさしひかえる。 (3) クログワイ防除はクログワイに有効な後期剤との組み合わせで使用する。
	⑥ DPX-84 A①粒 (ウルフ17)	土 壌 処 理	寒冷地南部。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ。	田植前後土壌処理した場合。 +15~+20ノビエ; 2Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ;	300 g/a	壤土~埴土(2cm/日以下)。	(1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 (2) 著しい多雨条件では、除草効果が低下

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ ― 5 ― (1)	⑥ DPX-84 A①粒 (つづき)				2 L まで。 ヒルムシロ; 発生期。			する場合がありますので、使用はさしひかえる。
	⑦ DPX-84 M粒 (プッシュ 25)	土 壌 処 理	寒地、寒冷地。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・クログワイ・ヒルムシロ・エゾノサヤスカグサ・シズイ・セリ・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ミズガヤツリ・クログワイ・シズイ・セリは寒冷地のみ。エゾノサヤスカグサ・アオミドロ・表層剥離は寒地のみ。〕	田植前後土壌処理した場合。 + 15 ~ + 20。 ノビエ; 2 L まで。 〔但し、寒地は 1.5 L まで。〕 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ; 2 L まで。 クログワイ・セリ; 発生始まで。 ヒルムシロ; 発生期。 〔但し、寒地は発生始まで。〕 エゾノサヤスカグサ; 1 ~ 4 L まで (草丈 20 cm 以下)。 シズイ; 草丈 2 ~ 3 cm 以下。 アオミドロ・表層剥離; 発生前~始。	300 g/a	壤土~埴土 (2 cm/日以下)。 〔但し、寒地は砂壤土 (1.5 cm/日以下) を含む。〕	(1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 (2) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合がありますので、使用はさしひかえる。 (3) クログワイ防除はクログワイに有効な後期剤との組み合わせで使用する。
	⑧ DPX-84 M①粒 (プッシュ 17)	土 壌 処 理	寒冷地南部。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ。	田植前後土壌処理した場合。 + 15 ~ + 20 ノビエ; 2 L まで。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ; 2 L まで。	300 g/a	砂壤土~埴土 (2 cm/日以下)	(1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 (2) 著しい多雨条件では、除草効果が低下する場合がありますので、使用はさしひかえる。
	⑨ HOK-05 M粒 〔Ⅱ-6-7①〕 (と併用) (セスロン)	茎 葉 兼 土 壌 処 理	全域の早期、普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・クサネム・アオミドロ・表層剥離。 〔但し、ウリカワは寒地を除く。ミズガヤツリは温暖地西部以西の早期のみ。ヘラオモダカは寒冷地以北のみ。クサネムは寒冷地と温暖地東部の普通期のみ。アオミドロ・表層剥離は温暖地西部の普通期のみ。〕	田植前後土壌処理した場合。 + 20 ~ + 25。 〔但し、寒冷地以北はイネ 5 L 以降。〕 ノビエ; 2.5 L まで。 〔但し、寒地は 2 L まで。〕 ホタルイ; 2 L まで。 ウリカワ; 4 L まで。 ミズガヤツリ; 5 L まで。 ヘラオモダカ; 3 L まで。 ヒルムシロ; 増殖初期まで。 クサネム; 草丈 2	g/a 300~400	砂壤土~埴土 (2 cm/日以下)。 〔但し、暖地の普通期は (1 cm/日以下) 〕	(1) 前処理剤との組み合わせで使用する。 (2) 低気温および低水温時は薬害の危険性があるので使用はさける。 (3) トリアジン系除草剤の使用上の注意を守る。

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
II 5 (1) 適用時期拡大(つづき)	⑨ HOK-05 M粒 (つづき)				「～3 cmまで。」 アオミドロ・表層 剥離；増殖始まで。			
	⑩ MSS-148 粒 (ピリカーナ)	茎 葉 兼 土 壌 処 理	温暖地以北 の普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ。 〔但し、ウリカワ は温暖地のみ。 ミズガヤツリは 温暖地西部のみ。 ヘラオモダカは 寒地のみ。〕	田植前後土壌処理 した場合。 +20～+25。 〔但し、寒冷地は〕 〔+15～+25〕 ノビエ；2 Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ；2 Lまで。 〔但し、温暖地東 部はホタルイ 3.5 Lまで。ウ リカワ4 Lまで。〕	300 g/a	壤土～埴土 (2 cm/日 以下) 〔但し、温 暖地西部 は砂壤土 ～埴土(1 cm/日以 下)。〕	(1) 前処理剤と の組み合わせで 使用する。
	⑪ NC-311 粒 〔II-6-2 ⑤〕 と併用	土 壌 処 理	寒地、温暖 地西部の普 通期。	一年生非イネ科・ マツバイ・ホタル イ・ウリカワ・ミ ズガヤツリ・オモ ダカ・ヘラオモダ カ。 〔但し、ミズガヤ ツリ・オモダカ は温暖地西部の み。ヘラオモダ カは寒地のみ。〕	田植前後土壌処理 した場合 寒地；+15～+20。 温暖地西部；+12 ～+20。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ；2 Lまで。 オモダカ；発生期。	300 g/a	壤土～埴土 (2 cm/日 以下) 〔但し、温 暖地西部 は(1 cm /日以下)。〕	(1) 前処理剤と の組み合わせ で使用する。 (2) 著しい多雨 条件では、除 草効果が低下 するので、使用 はさしひかえ る。
	⑫ S-28H 粒	茎 葉 兼 土 壌 処 理	寒冷地以北、 温暖地西部 の普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ヘラオ モダカ・アオミド ロ・表層剥離。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く。ヘラオモダ カは寒地のみ。 アオミドロ・表 層剥離は温暖地 西部のみ。〕	田植前後土壌処理 した場合。 +20～+25。 ノビエ；2.5 Lま で。 〔但し、寒地は2 〕 Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ；2 Lまで。 〔但し、温暖地西 〕 部は4 Lまで。 ヘラオモダカ；2 Lまで。 アオミドロ・表層 剥離；増殖始まで。	300 g/a	壤土～埴土 (2 cm/日 以下)。 〔但し、温 暖地西部 は砂壤土 ～埴土(1 cm/日以 下)〕	(1) 前処理剤と の組み合わせ で使用する。 (2) トリアジン 系除草剤の使 用上の注意を 守る。
	⑬ MY-71 粒 (ユカワイド)	土 壌 処 理	寒冷地以西 の普通期、 温暖地東部 の早期。	一年生非イネ科・ マツバイ・ウリカ ワ・オモダカ・ヒ ルムシロ。 〔但し、一年生非 イネ科・マツバ イは温暖地東部 のみ。オモダカ は温暖地のみ。 ヒルムシロは寒 冷地を除く。〕	田植前後土壌処理 した場合。 +7～+15。 ウリカワ；3 Lま で。 〔但し、寒冷地は〕 〔発生始まで。温 暖地東部は2 L 〕 まで。 オモダカ；3 Lまで。 〔但し、温暖地東 〕 部は発生前。 ヒルムシロ；発生期。 〔但し、温暖地東 〕 部は発生前。	300 g/a	壤土～埴土 (2 cm/日 以下) 〔但し、温 暖地西部 以西は砂 壤土～埴 土(1.5 cm/日以 下)。〕	(1) 前処理剤と の組み合わせ で使用する。

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 6 1 (1)	① DPX-84 粒		〔Ⅱ-5-1-④の項参照〕					
	② DPX-84 A粒		〔Ⅱ-3-⑦の項参照〕					
	③ DPX-84 A①粒 〔Ⅱ-6-3① Ⅱ-6-8① と併用〕 (ウルフ17)	土 壌 処 理	全域の早期、 普通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・ク ログワイ・ヒルム シロ・クサネム・ ヒメホタルイ・セ リ・コウキヤガラ・ アオミドロ・表層 剥離。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く。オモダカは 寒冷地南部・温 暖地の普通期・ 温暖地東部の早 期のみ。ヘラオ モダカは寒地の み。ログワイ は温暖地東部の 普通期と暖地普 通期のみ。ヒル ムシロは温暖地 西部以西の早期 を除く。クサネ ムは寒冷地・温 暖地の普通期の み。ヒメホタル イ・コウキヤガ ラは暖地の早期 のみ。セリは温 暖地の普通期の み。アオミドロ・ 表層剥離は寒冷 地と温暖地西部 の普通期のみ。〕	+5～ノビエ2L まで。 〔但し、寒冷地北 部以北はノビエ 1.5Lまで。〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ；2 Lまで。 オモダカ；発生始 まで。 ログワイ；発生 期まで。 ヒルムシロ；発生 始まで。 〔但し、温暖地東 部は発生期。〕 クサネム；発生前 ～本葉展開期。 ヒメホタルイ；発 生始まで。 セリ；再生前～始 まで。 コウキヤガラ；発 生始～盛期。 アオミドロ・表層 剥離；発生前。	g/a 300～400 〔但し、寒 地と暖地 は300の み。〕	砂壌土～埴 土(2cm/ 日以下)。 〔但し、温 暖地西部 の普通期 と暖地早 期の砂壌 土は(1 cm/日以 下)。寒 地・寒冷 地北部・ 温暖地西 部の早期 は砂壌土 を除く。〕	(1) 著しい多雨 条件では、除 草効果が低下 する場合があ るので使用は さしひかえる。 (2) <u>ログワイ</u> 防除は <u>ログワ イに有効な 後期剤との組 み合わせで使 用する。</u> (3) <u>コウキヤガ ラ防除は、コ ウキヤガラに 有効な後期剤 との組み合わせ で使用する。</u>
	④ DPX-84 M粒		〔Ⅱ-3-⑧の項参照〕					
	⑤ DPX-84 M①粒		〔Ⅱ-3-⑨の項参照〕					
	⑥ DPX-84 SC粒		〔Ⅱ-3-⑩の項参照〕					
	⑦ DPX-84 SC①粒		〔Ⅱ-3-⑪の項参照〕					
	⑧ DPX-84 T①粒		〔Ⅱ-3-⑬の項参照〕					
Ⅱ 6 (2)	① BAS-3510 (Na)①粒		〔Ⅱ-5-1-①の項参照〕					

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅱ 6 (2) オモダカ対象(つき)	② <u>DPX-84</u> <u>粒</u>		〔Ⅱ-5-1-④の項参照〕					
	③ <u>DPX-84</u> <u>SC粒</u>		〔Ⅱ-3-⑩の項参照〕					
	④ <u>DPX-84</u> <u>SC①粒</u>		〔Ⅱ-3-⑪の項参照〕					
	⑤ <u>NC-311</u> <u>粒</u>		〔Ⅱ-5-1-⑪の項参照〕					
Ⅱ 6 (3)	① <u>DPX-84</u> <u>A①粒</u>		〔Ⅱ-6-1-③の項参照〕					
	② <u>DPX-84</u> <u>M粒</u>		〔Ⅱ-3-⑧の項参照〕					
	③ <u>DPX-84</u> <u>M①粒</u>		〔Ⅱ-3-⑨の項参照〕					
	④ <u>DPX-84</u> <u>T①粒</u>		〔Ⅱ-3-⑬の項参照〕					
セ リ 対 象	⑤ <u>KNW-243</u> <u>粒</u> 〔Ⅱ-3と併用〕	土 壌 処 理	全域の普通 期, 温暖地 東部の早期.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・セリ. 〔但し, ホタルイ は温暖地東部以 北のみ. ウリカ ワは暖地を除く. ミズガヤツリは 温暖地東部のみ. ヘラオモダカは 寒地のみ. セリ は寒冷地・温暖 地の普通期のみ.〕	+3~ノビエ1.5 Lまで. 〔但し, 寒地は+ 3~+7(ノビ エ1Lまで). 温暖地以西は+ 3~+5(ノビ エ1Lまで). ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 発 生始まで. セリ; 再生前~始 まで.	g/a 300~400 〔但し, 温 暖地以西 は300の み.〕	壤土~植土 (2cm/日 以下). 〔但し, 温 暖地西部 は(1.5 cm/日以 下). 暖 地は(1 cm/日以 下).〕	
	⑥ <u>KNW-244</u> <u>粒</u>		〔Ⅱ-3-⑮の項参照〕					
Ⅱ 6 (5)	① <u>BAS-3510</u> <u>(Na)①液</u>		〔Ⅱ-5-①の項参照〕					
	② <u>BAS-3510</u> <u>(Na)①粒</u> 〔Ⅱ-5-1 と併用 (バサグラン)〕	茎 葉 処 理	全域の早期, 普通期.	一年生雑草イネ科・ マツバイ・ホタル イ・ウリカワ・ミ ズガヤツリ・オモ ダカ・ヘラオモダ カ・エゾノサヤヌ カグサ・シズイ. 〔但し, ホタルイ は暖地の普通期 を除く. ミズガ ヤツリは寒地を 除く. オモダカ・ シズイは寒冷地 のみ. ヘラオモ ダカは寒冷地以 北のみ. エゾノ	田植前後土壌処理 した場合. 温暖地東部以北; +20~+30. 温暖地西部の早期; +30~+35. 温暖地西部の普通 期; +12~+25. 暖地の早期; +30 ~+40. 暖地の普通期; + 7~+25. 非イネ科; 生育期. ホタルイ; 発生盛 期~前期. 〔但し, 暖地の早	g/a 300~400 〔但し, 温 暖地西部 の早期は 300のみ.〕	砂壤土~植 土(1.5cm /日以下).	(1) 前処理剤と の組み合わせ で使用する. (2) 落水もしく は浅水で使 用する. (3) 処理後の灌 水は48~72時 間経過後に行 なう. (4) 処理後2日 以内に降雨が 予想される場 合は使用をさ しひかえる.

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
II 6 (5)	② BAS-3510 (Na)①粒 (つづき)			〔サヤヌカグサは 寒地のみ。〕	〔期は発生盛期～ 増殖中期。 ウリカワ；発生盛 期～前期。 〔但し、寒冷地は 4～6 L、温暖 地西部は6 Lま で。暖地は3～ 8 L。 ミズガヤツリ；発 生盛期～前期。 〔但し、温暖地西 部と暖地早期は 3～7 L。暖地 普通期は発生盛 期～増殖中期。〕 オモダカ；発生盛 期。 ヘラオモダカ；発 生盛期～前期。 エゾノサヤヌカグ サ；1～4 Lまで (草丈20 cm以 下)。 シズイ；草丈10～ 15 cm以下。〕			
	③ DPX-84 A粒		〔II-3-⑦の項参照〕					
	④ DPX-84 M粒		〔II-3-⑧の項参照〕					
	⑤ DPX-84 T粒		〔II-3-⑩の項参照〕					
	⑥ BAS-3510 (Na) 粒 (バサグラン)	茎 葉 処 理	全域の早期、 普通期。	一年生非イネ科・ マツバイ・ホタル イ・ウリカワ・ミ ズガヤツリ・オモ ダカ・ヘラオモダ カ・エゾノサヤヌ カグサ・シズイ。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒冷地と 温暖地の普通期 のみ。ヘラオモ ダカは温暖地西 部以西の早期を 除く。エゾノサ ヤヌカグサは寒 地のみ。シズイ は寒冷地のみ。〕	田植前後土壌処理 した場合。 一年生非イネ科； 生育期。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ；発 生盛期～増殖中 期。 〔但し、寒地・温 暖地西部以西の 早期は発生盛期 ～増殖初期。 オモダカ；発生始 ～発生盛期。 エゾノサヤヌカグ サ；1～4 L(草 丈20 cm以下)。 シズイ；草丈10～ 10～30 cmまで。	g/a 300～400	全土壌(1.5 cm/日以下)。 〔但し、寒 地は壤土 ～埴土(2 cm/日以 下)〕。	(1) 前処理剤と の組み合わせ で使用する。 (2) 落水もしく は浅水で使用 する。 (3) 処理後の灌 水は、48～72 時間経過後に 行なう。 (4) 処理後2日 以内に降雨が 予想される場 合は使用をさ しひかえる。
II 6 (6)	① BAS-3510 (Na)①液		〔II-5-1-①の項参照〕					
	② DPX-84 A粒		〔II-3-⑦の項参照〕					

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
Ⅱ Ⅰ 6 Ⅰ (6)サ 対象 エゾノ ノサヤ	③ <u>DPX-84</u> <u>M粒</u>		〔Ⅱ-3-⑧の項参照〕					
	④ <u>DPX-84</u> <u>T粒</u>		〔Ⅱ-3-⑫の項参照〕					
Ⅱ Ⅰ 6 Ⅰ (7)対 象	① <u>HOK-05</u> <u>M粒</u>		〔Ⅱ-5-1-⑨の項参照〕					
Ⅱ Ⅰ 6 Ⅰ (8)対 象	① <u>DPX-84</u> <u>A①粒</u>		〔Ⅱ-6-1-③の項参照〕					
Ⅲ Ⅰ 1 湛 水 直 播	① <u>CG-113</u> <u>(改)粒</u>	土 壌 処 理	寒 冷 地	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ.	播種後 10～20 日 (ノビエ 1.5 L まで). ホタルイ; 2 L ま で.	300 g/a	壌土～埴土 (2 cm/日 以下).	
	② CG-SW ①(改)粒	土 壌 処 理	寒冷地, 温 暖地.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ヒルム シロ. 〔但し, ウリカワ〕 は温暖地のみ. ヒルムシロは温 暖地西部のみ.〕	イネ出芽揃後～ノ ビエ 2 L まで. 〔但し, 寒冷地は〕 ノビエ 1.5 L ま で. ホタルイ; 発生始 まで. 〔但し, 寒冷地は〕 〔2 L まで. ウリカワ; 2 L ま で. 〔但し, 温暖地東〕 部は発生始まで.〕 ヒルムシロ; 発生 期.	300 g/a	壌土～埴土 (2 cm/日 以下). 〔但し, 温 暖地西部 は砂壌土 ～埴土(1 cm/日以 下).〕	
	③ <u>DPX-84</u> <u>M①粒</u> (ウルフ17)	土 壌 処 理	温暖地西部	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・オモダ カ・ヒルムシロ.	イネ 1 L～ノビエ 2 L まで. ホタルイ・ウリカ ワ; 発生始まで. オモダカ・ヒルム シロ; 発生期.	300 g/a	壌土～埴土 (1 cm/日 以下).	
	④ MY-93E 粒 (ノラミット)	土 壌 処 理	温暖地西部. 暖地	一年生雑草・マツ バイ・ウリカワ・ ヒルムシロ. 〔但し, 暖地はマ ツバイを除く. ヒルムシロは暖 地のみ.〕	播種直後～ノビエ 2 L まで. 〔但し, 温暖地西 部はノビエ 1.5 L まで. ウリカワ; 2 L ま で. ヒルムシロ; 発生 始まで.	g/a 300～400 〔但し, 温 暖地西部 は 300 の み.〕	砂壌土～埴 土(1 cm/ 日以下). 〔但し, 暖 地は埴壌 土～埴土 (2 cm/ 日以下).〕	

区分	薬 剂 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅲ 1. 灌 水 直 播 (つづき)	⑤ SB-77 粒 (シルベノン)	土 壌 処 理	寒冷地以西.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ. 〔但し、ホタルイ は寒冷地と温暖 地東部のみ。ウ リカワは温暖地 以西のみ。〕	イネ 1 L ~ ノビエ 2 L まで。 〔但し、寒冷地は ノビエ 1.5 L ま で。 ホタルイ・ウリカ ワ; 2 L まで。〕	300 g/a	砂壤土 ~ 埴 土 (1 cm / 日以下)。 〔但し、寒 冷地・温 暖地東部 は埴土 ~ 埴土 (2 cm / 日以下)。 暖 地は埴土 ~ 埴土 (2 cm / 日以下)〕	
	⑥ SL-49 粒 (パイサー)	土 壌 処 理	寒冷地以西.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヒルムシ ロ。 〔但し、ホタルイ は温暖地東部を 除く、ウリカワ は寒冷地を除く。 ミズガヤツリは 寒冷地のみ。ヒ ルムシロは温暖 地西部以西のみ。〕	播種前 3 日 ~ 播種 後 7 日。 〔但し、温暖地東 部と暖地は播種 直後 ~ 播種後 3 日。 ノビエ; 1 L まで。 〔但し、寒冷地は 発生始まで。〕 ホタルイ; 発生始 まで。 〔但し、寒冷地は 発生前。 ウリカワ; 2 L ま で。 ミズガヤツリ・ヒ ルムシロ; 発生始 まで。〕	g/a 300 ~ 400 〔但し、温 暖地以西 は 300 の み。〕	砂壤土 ~ 埴 土 (2 cm / 日以下)。 〔但し、砂 壤土は暖 地のみ。〕	
	⑦ SL-496 ① (改) 粒	土 壌 処 理	寒冷地・温 暖地西部.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ。 〔但し、ホタルイ は寒冷地のみ。〕	イネ 1 L ~ ノビエ 1.5 L まで ホタルイ; 2 L ま で。	300 g/a	埴土 ~ 埴土 (2 cm / 日 以下)。 〔但し、温 暖地西部 は (1 cm / 日以下)〕	
	⑧ SL-708 粒	土 壌 処 理	寒冷地・温 暖地西部.	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ヘラオ モダカ。 〔但し、ホタルイ・ ウリカワは温暖 地西部のみ。ヘ ラオモダカは寒 冷地のみ。〕	播種後 3 日 ~ ノビ エ 1.5 L まで。 ホタルイ・ウリカ ワ; 2 L まで。 ヘラオモダカ; 発 生始まで。	300 g/a	埴土 ~ 埴土 (2 cm / 日 以下)。	
	⑨ YH-453 粒 (エスドラム)	土 壌 処 理	全 域	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒冷地と 温暖地のみ。ヘ ラオモダカは寒 地のみ。ヒルム	温暖地東部以北; 播種後 7 日 ~ ノ ビエ 2 L まで。 温暖地西部; 播種 後 10 日 ~ ノビエ 2 L まで。 暖地; 播種後 5 日 ~ ノビエ 2 L ま で。 ホタルイ・ウリカ	300 g/a	砂壤土 ~ 埴 土 (1 cm / 日以下)。 〔但し、温 暖地東部 以北は埴 土 ~ 埴土 (2 cm / 日以下)。 暖地は埴	

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅲ 直播 1. (つづき) 灌水	⑨ YH-453 粒 (つづき)			[シロは暖地のみ。]	ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 2 Lまで。 ヒルムシロ; 発生 始まで。		壤土～埴 土(2cm /日以下)。	
Ⅲ 乾 2. 田直播	① HW-61 水和	土 壤 処 理	温暖地西部 以西。	一年生雑草。	播種後～ノビエ5 Lまで(入水5 日前まで)。 [但し、暖地はノ ビエ3Lまで。]	60 g/a	温暖地西部; 壤土。 暖地; 埴土	(1) カーバマイ ト系剤との近 接散布をさけ る。
Ⅳ 畦 畔 雑 草	① グリホサート液 (ラウンドア ップ)	茎 葉 処 理	全 域	全 雑 草	雑草生育期	一年生雑草; 25~50m/ 多年生雑草; 75~100 m/ 少量散布の 場合; 25m/ /a 稀釈水量2.5 l/aでも有 効。	全 土 壤	(1) ノリ面散布 はさける。 (2) 流入、飛散 等による水稻 への薬害に注 意する。 (3) 年1回程度 の使用にとど める。 (4) 少量散布の 場合は専用の 散布機を用い る。
	② DDX 水和	茎 葉 処 理	寒冷地・暖 地。	全 雑 草	雑草発生揃期。 [但し、寒冷地は] 雑草生育期。	150 g/a	全 土 壤	(1) ノリ面散布 はさける。 (2) 流入、飛散 等による水稻 への薬害に注 意する。
	③ HOK-15 水和 (ホクパック)	土 壤 処 理	寒冷地以西。	全 雑 草	雑草発生前～発生 始期。	g/a 75 ~ 100	全 土 壤	(1) ノリ面散布 はさける。 (2) 流入、飛散 等による水稻 への薬害に注 意する。
	④ HOK-15 ①細粒	土 壤 処 理	暖 地	全 雑 草	雑草発生前～発生 始期。	1,000 g/a	全 土 壤	(1) ノリ面散布 はさける。 (2) 流入、飛散 等による水稻 への薬害に注 意する。
	⑤ Hoe-866 液 (バスタ)	茎 葉 処 理	全 域	全 雑 草	雑草生育期。	寒地: 75~ 100m/a 寒冷地・温 暖地東部; 50~100 温暖地西部; 30~75 暖地: 50~ 75	全 土 壤	(1) ノリ面散布 はさける。 (2) 流入、飛散 等による水稻 への薬害に注 意する。
	⑥ MON-8794 液	茎 葉 処 理	寒冷地・温 暖地西部以 西。	全 雑 草	雑草生育期(草丈 20~30 cm)。	mL/a 30 ~ 50 [但し、温 暖地西部 以西は40 ~50。]	全 土 壤	(1) ノリ面散布 はさける。 (2) 流入、飛散 等による水稻 への薬害に注 意する。

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
Ⅳ 畦 畔 雑 草 (つづき)	⑦ MR-28 液	茎葉 処理	寒冷地・暖 地.	全 雑 草	雑草生育期	m ^l /a 30 ~ 50	全 土 壌	(1) ノリ面散布 はさける。 (2) 流入, 飛散 等による水稲 への薬害に注 意する。
	⑧ MW-831 水溶 (ハービエー ス)	茎葉 処理	寒冷地・温 暖地西部以 西.	全 雑 草	雑草生育期	m ^l /a 30 ~ 75 〔但し, 温 暖地西部 以西は50 ~75.〕	全 土 壌	(1) ノリ面散布 はさける。 (2) 流入, 飛散 等による水稲 への薬害に注 意する。
	⑨ SC-224 液	茎葉 処理	寒冷地以西	全 雑 草	雑草生育期	m ^l /a 40 ~ 60	全 土 壌	(1) ノリ面散布 はさける。 (2) 流入, 飛散 等による水稲 への薬害に注 意する。
	⑩ YF-65① 液 (プリグロッ クス①)	茎葉 処理	温 暖 地	全 雑 草	雑草生育期(草丈 20 ~ 30 cm)	m ^l /a 80 ~ 100	全 土 壌	(1) ノリ面散布 はさける。 (2) 流入, 飛散 等による水稲 への薬害に注 意する。
Ⅴ 耕 起 前 雑 草	① グリホサート液 (ラウンドア ップ)	茎葉 処理	寒冷地以西	一年生雑草・キシ ュウスズメノヒエ.	一年生雑草; 耕起 前40~20日. キシュウスズメノ ヒエ; 耕起前20~ 10日.	m ^l /a 一年生: 25 ~50 キシュウス ズメノヒエ; 50~100 少量散布の 場合: 薬量 25m ^l /a, 希釈水量 2.5 l/a でも有効. 〔但し, 寒 冷地・温 暖地西部 のみ.〕	全 土 壌	(1) 周辺の作物 に飛散しない ように注意す る。 (2) 希釈水量は 出来るだけ少 なく茎葉に付 着するように 散布する。 (3) 少量散布の 場合は, 専用 の散布機を使 用する。
	② Hoe-866 液 (バスタ)	茎葉 処理	寒冷地・温 暖地西部以 西.	一年生雑草.	雑草生育期. 耕起前20~15日.	m ^l /a 30 ~ 50 〔但し, 暖 地は50の み.〕	全 土 壌	(1) 周辺の作物 に飛散しない ように注意す る。
	③ MON-8794 液	茎葉 処理	寒冷地・温 暖地西部.	一年生雑草・イネ 科多年生雑草. 〔但し, イネ科多 年生雑草は寒冷 地のみ.〕	雑草生育期. 耕起前40~20日.	m ^l /a 30 ~ 50 〔但し, 温 暖地西部 は40~50.〕 少量散布の 場合は希釈 液量 2.5 l/ a でも有効.	全 土 壌	(1) 周辺の作物 に飛散しない ように注意す る。 (2) 希釈水量は 出来るだけ少 なく茎葉に付 着するように 散布する。 (3) 少量散布の 場合は, 専用 の散布機を使 用する。

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
V 耕 起 前 雑 草	④ SC-224 液	茎葉 処理	温暖地西部 以西	一年生雑草.	雑草生育期. 耕起前40～20日.	ml/a 40～75	全 土 壤	(1) 周辺の作物 に飛散しない ように注意す る.
	⑤ YF-65① ①液 (プリグロッ クス①)	茎葉 処理	温 暖 地	一年生雑草.	雑草生育初期. 耕起前20～10日.	ml/a 60～100 〔但し、温 暖地東部 は80～ 100.〕	全 土 壤	(1) 周辺の作物 に飛散しない ように注意す る.
VI 休 耕 田	① YF-65 ①液 (プリグロッ クス①)	茎葉 処理	温暖地以西	一年生雑草.	雑草生育期(草丈 40cm以下).	ml/a 80～120 〔但し、暖 地は100.〕	全 土 壤	(1) 周辺の作物 に飛散しない ように注意す る.
VII I 体 1. 系初期 一発 正処理 剤	① DPX-84 A①粒 (ウルフ17)	土 壌 処 理	寒冷地南部. 温暖地の早 期・普通期.	一年生雑草・マツ パイ・ウリカワ・ ミズガヤツリ・オ モダカ・ヒルムシ ロ・クサネム・ア オミドロ・表層剥 離. 〔但し、オモダカ・ クサネムは温暖 地東部普通期の み。ヒルムシロ は寒冷地南部・ 温暖地西部早期 を除く。アオミ ドロ・表層剥離 は寒冷地南部・ 温暖地西部普通 期のみ。〕	+5～ノビエ2L まで. ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ; 2Lまで. オモダカ; 発生始 まで. ヒルムシロ; 発生 期. 〔但し、温暖地西 部は発生始.〕 クサネム; 発生前 ～本葉展開期. アオミドロ・表層 剥離; 発生前.	300 g/a	砂壤土～埴 土(2cm/ 日以下). 〔但し、温 暖地西部 の早期は 埴壤土～ 埴土(1 cm/日以 下). 温 暖地西部 の普通期 は埴土～ 埴土.〕	(1) 著しい多雨 条件では除草 効果が低下す る場合がある ので、使用は さしひかえる.
	② DPX-84 M①粒 (ブッシュ17)	土 壌 処 理	温暖地の普 通期, 温暖 地東部の早 期.	一年生雑草・マツ パイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヒルムシロ・アオ ミドロ. 〔但し、オモダカ は温暖地東部の 普通期のみ。ア オミドロは温暖 地西部のみ。〕	+5～ノビエ2L まで. ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ; 2Lまで. オモダカ; 発生始 まで. ヒルムシロ; 発生 期. アオミドロ; 発生 前.	300 g/a	砂壤土～埴 土(2cm/ 日以下). 〔但し、温 暖地西部 の砂壤土 は(1.5 cm/日以 下).〕	(1) 著しい多雨 条件では除草 効果が低下す る場合がある ので、使用は さしひかえる.
	③ S-473 ①粒 (サリオ)	土 壌 処 理	温暖地以西 の普通期.	一年生雑草・マツ パイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヒルムシ ロ. 〔但し、ヒルムシ ロは温暖地西部 のみ。〕	+1～ノビエ1.5 Lまで. 〔但し、温暖地西 部は+3～ノビ エ1Lまで, 暖 地は+3～ノビ エ1.5Lまで.〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ; 2Lまで. 〔但し、温暖地東 部のミズガヤツ リは発生始まで. ヒルムシロ; 発生 始まで.〕	300 g/a	砂壤土～埴 土(2cm/ 日以下). 〔但し、温 暖地東部 は埴土～ 埴土, 温 暖地西部 の砂壤土 は(1.5 cm/日以 下).〕	(1) 著しい高温 条件下の砂壤 土水田ではク ロロシスの発 生するので注意 する.

区分	薬剤名	処理	適用地域	適用草種	処理時期	使用量	適用土壌	使用上の注意
Ⅶ 1. 初期一発処理剤 (くじき)	④ SL-495 粒 (ノックワン)	土壌処理	温暖地西部以西の早期、普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤツリは暖地普通期を除く。ヒルムシロは普通期のみ。〕	+1～+7 (ノビエ1 Lまで)。 〔但し、温暖地西部は+3～+7 (ノビエ1 Lまで)。 ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ; 2 Lまで。 ヒルムシロ; 発生期。 〔但し、温暖地西部は発生始。〕	300 g/a	砂壤土～埴土 (2 cm/日以下)。 〔但し、温暖地西部早期は (1 cm/日以下)。温暖地西部普通期の砂壤土は (1 cm/日以下)。暖地は (1.5 cm/日以下)〕	(1) 著しい高温条件下の砂壤土水田ではクロロシスの発生するので注意する。
	⑤ SL-496 粒	土壌処理	全域の早期、普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤツリは寒地・温暖地東部早期を除く。ヘラオモダカは温暖地東部以北のみ。ヒルムシロは温暖地西部以西の早期を除く。〕	+3～ノビエ2 Lまで。 〔但し、寒地・温暖地西部早期は+3～ノビエ1.5 Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ; 2 Lまで。 ミズガヤツリ; 発生始まで。 〔但し、温暖地西部普通期・暖地早期は2 Lまで。〕 ヒルムシロ; 発生期。	g/a 300～400	埴土～埴土 (2 cm/日以下)。 〔但し、寒地は砂壤土 (1.5 cm/日以下)を含む。温暖地西部早期は埴土 (1 cm/日以下)。暖地普通期は (1.5 cm/日以下)〕	(1) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。 (2) 著しい高温条件下の砂壤土水田ではクロロシスの発生するので注意する。
	⑥ SL-496 ①粒 (ワンオール)	土壌処理	全域の早期、普通期。	一年生雑草・マツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤツリは寒地を除く。ヘラオモダカは温暖地東部以北のみ。ヒルムシロは温暖地西部以西の早期を除く。〕	+0～ノビエ2 Lまで。 〔但し、寒地は+3～ノビエ1.5 Lまで。寒冷地は+3～ノビエ2 Lまで。 ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカ; 2 Lまで。 〔但し、寒地は発生始まで。〕 ミズガヤツリ; 発生始まで。 〔但し、暖地早期は2 Lまで。〕 ヒルムシロ; 発生期。	g/a 300～400 〔但し、+0～+2は300のみ。〕	砂壤土～埴土 (2 cm/日以下)。 〔但し、寒地・寒冷地・温暖地西部普通期は砂壤土を除く。温暖地西部早期は埴土 (1 cm/日以下)。暖地早期の砂壤土は (1 cm/日以下)。暖地普通期は砂壤土 (1 cm/日以下)。埴土～埴土 (1.5 cm/日以下)〕	(1) 泥炭質土壌では、ウリカワに対する効果が低下することがある。 (2) 著しい高温条件下の砂壤土水田ではクロロシスの発生するので注意する。

区分	薬 剤 名	処理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適用土壌	使用上の注意
Ⅶ 1. 初・中期 一 発 処 理 剤	① DPX-84 SC①粒 (フジグラス 17)	茎 葉 兼 土 壌 処 理	温暖地の普 通期。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヒルムシ ロ。 〔但し、ヒルムシ ロは温暖地西部 のみ。〕	+5～ノビエ2.5 Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ； 2Lまで。 ヒルムシロ；発生 期。	300 g/a	砂壌土～埴 土(2cm/日 以下)。 〔但し、温 暖地西部 は(1cm /日以下)〕	(1) 著しい多雨 条件では除草 効果が低下す る場合がある ので使用はさ しひかえる。
	② DPX-84 T粒 (ザーク25)	茎 葉 兼 土 壌 処 理	寒冷地以北。	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ ヘラオモダカ・ヒ ルムシロ・エゾノ サヤヌカグサ・ア オミドロ・表層剥 離。 〔但し、ミズガヤ ツリ・オモダカ は寒冷地のみ。 エゾノサヤヌカ グサは寒地のみ。〕	+5～ノビエ2.5 Lまで。 〔但し、寒地はノ ビエ2Lまで。〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ；2 Lまで。 オモダカ・アオミ ドロ・表層剥離； 発生始まで。 ヒルムシロ；発生 期。 〔但し、寒地は発 生始まで。〕 エゾノサヤヌカ グサ；1～4L(草 丈20cm以下)。	300 g/a	埴土～埴土 (2cm/日 以下)。 〔但し、寒 地は砂壌 土(1.5 cm/日以 下)を含 む。〕	(1) 著しい多雨 条件では除草 効果が低下す る場合がある ので使用はさ しひかえる。 (2) 植付精度不 良で、根が露 出する水田で は使用しない。
	③ DPX-84 T①粒 (ザーク17)	茎 葉 兼 土 壌 処 理	寒冷地南部 以西の早期、 普通期。 〔但し、暖 地普通期 は除く。〕	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・オモダカ・ クログワイ・ヒル ムシロ・セリ・ア オミドロ。 〔但し、オモダカ・ アオミドロは温 暖地西部のみ。 クログワイは暖 地のみ。ヒルム シロは温暖地の み。セリは温暖 地西部の普通期 のみ。〕	+5～ノビエ2.5 Lまで。 〔但し、温暖地西 部普通期。暖地 はノビエ3Lま で。〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ オモダカ；2Lま で。 クログワイ・ヒル ムシロ；発生期。 セリ；再生前～始 アオミドロ；発生 前。	300 g/a	埴土～埴土 (2cm/日 以下)。 〔但し、温 暖地西部 早期は(1 cm/日以 下)。暖 地は砂壌 土(1.5cm /日以下)〕	(1) 著しい多雨 条件では除草 効果が低下す る場合がある ので使用はさ しひかえる。 (2) 植付精度不 良で、根が露 出する水田で は使用しない。
	④ FSS-115 粒 (リードゾン)	茎 葉 兼 土 壌 処 理	温暖地以北 の普通期。 温暖地西部 の早期。 〔但し、温 暖地東部 の植付け 時低温地 帯は除く。〕	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く。ヘラオモダ カは寒冷地以北 のみ。ヒルムシ ロは寒冷地以北・ 温暖地西部の普 通期のみ。〕	+5～ノビエ2.5 Lまで。 〔但し、寒地はノ ビエ2Lまで。〕 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ；2 Lまで。 ヒルムシロ；発生 期。 〔但し、寒冷地以 北は発生始まで。〕	300 g/a	埴土～埴土 (2cm/日 以下)。 〔但し、温 暖地西部 早期は(1 cm/日以 下)〕	(1) 泥炭質土壌 では、ウリカ ワに対する効 果が低下する ことがある。 (2) 植付精度不 良で、根が露 出する水田で は使用しない。
	⑤ YH-453 粒 (エスドラム)	茎 葉 兼 土 壌 処 理	全域の早期、 普通期。 〔但し、暖	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ	+5～ノビエ2.5 Lまで。 〔但し、寒地はノ	g/a 300～400 〔但し、寒	砂壌土～埴 土(2cm/日 以下)。	(1) 泥炭質土壌 では、ウリカ ワに対する効

区分	薬 剤 名	処 理	適用地域	適 用 草 種	処 理 時 期	使 用 量	適 用 土 壌	使用上の注意
VII 1. 初・中期一発処理剤(つづき)	⑤ YH-453 粒 (つづき)		地早期は 除く。	ヤツリ・ヘラオモ ダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ミズガヤ ツリは寒地を除 く、ヘラオモダ カは寒冷地以北 のみ。ヒルムシ ロは温暖地東部 以北のみ。〕	ビエ2Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ミズガヤツリ・ ヘラオモダカ; 2 Lまで。 ヒルムシロ; 発生 期。	地・寒冷 地・温暖 地早期は 300のみ。	〔但し、暖 地は(1.5 cm/日以 下)。寒 地・温暖 地西部普 通期の砂 壤土は (1.5cm /日以下)。 寒冷地は 砂壤土を 除く。温 暖地西部 早期は埴 土(1 cm/日以 下)。〕	果が低下する ことがある。 (2) 著しい高温 条件下の砂壤 土水田では、 クロロシスの 発生すること があるので注 意する。 (3) 一年生広葉 雑草多発田で は400g/aと し、特にヒメ ミソハギが多 発する水田で の使用はさけ る。
	⑥ NTN-831 粒 (シンザン)	茎 葉 兼 土 壌 処 理	全域の早期、 普通期。 〔但し、温 暖地東部 の早期は 除く。〕	一年生雑草・マツ バイ・ホタルイ・ ウリカワ・ミズガ ヤツリ・ヘラオモ ダカ・ヒルムシロ。 〔但し、ウリカワ は温暖地西部普 通期・暖地早期 を除く。ミズガ ヤツリは寒地を 除く。ヘラオモ ダカは寒冷地以 北のみ。ヒルム シロは寒地・寒 冷地・暖地普通 期のみ。〕	+5〜ノビエ2.5 Lまで。 〔但し、寒地・温 暖地西部以西の 早期はノビエ2 Lまで。 ホタルイ・ウリカ ワ・ヘラオモダカ; 2Lまで。 ミズガヤツリ; 2 Lまで。 〔但し、温暖地西 部は発生始まで。〕 ヒルムシロ; 発生 期。 〔但し、寒冷地は〕 発生始まで。〕	g/a 300〜400 〔但し、温 暖地西部 早期・暖 地は300 のみ。〕	埴土〜埴土 (2cm/日 以下)。 〔但し、温 暖地西部 早期は(1 cm/日以 下)。暖 地普通期 は(1.5 cm/日以 下)。暖 地早期は 砂壤土〜 埴土(2 cm/日以 下)。〕	(1) 植付精度不 良で、根が露 出する水田で は使用しない。

注) 1. アンダーライン実線は本年度拡大された部分、点線はその一部が拡大されたものを示す。

2. 薬剤名欄の下段に商品名〔()内〕または農薬登録後予定される商品名〔()内実線付〕を参考のために記載した。

新 除 草 ・ 調 節 剤

対象作物：移植水稻

シンザン[®] 粒 剤

ナプロアニリド・プロモブチド・

メフェナセット粒剤

(取扱メーカー) 塩 野 義 製 薬 株 式 会 社
八 洲 化 学 工 業 株 式 会 社
山 本 農 薬 株 式 会 社
日 本 特 殊 農 薬 製 造 株 式 会 社

成分・作用特性：本剤は、 α -(2-ナフト
キシプロピオンアニリド……7%と(RS)-
2-ブロモ-N-(α , α -ジメチルベンジル)
-3,3-ジメチルブチルアミド……4%と2-
ベンゾチアゾール-2-イルオキシ-N-メチ
ルアセトアニリド……3.5%を含有する類白色
の細粒である。

本剤は、殺草作用の異なる3つの成分(ナプ
ロアニリド・プロモブチド・メフェナセット)

の共力作用により、雑草の生長点に強く作用し、抑制・枯死に到らしめる。ナプロアニリドは、雑草の根部および茎葉部より吸収され、雑草体内で細胞分裂や伸長の旺盛な部位の正常なホルモンの働きを攪乱し、雑草を枯死させるかあるいは、生長を抑制する。また、プロモブチドは雑草の幼芽部および根部から吸収され、根から吸収された成分は容易に茎葉部へ移行し、雑草を徐々に枯殺する。一方メフェナセツトは根部および幼芽部の主として生長点原基に作用し、タンパク合成を阻害する。すなわち、生長点における細胞サイクルの静止期・代謝期に作用し、細胞の分裂・伸長を阻害することによって雑草の生育を停止させ、枯死にいたらしめる。

特徴：①広い散布適期幅をもち、農作業に余裕。田植後12～15日頃までの散布ができるため、代かき・田植・補植・除草剤の散布と連続の農作業にゆとりをもたせることができ、いままででない極めて便利な除草剤といえる。②広範囲の雑草に優れた効果。ノビエをはじめとするキャツリグサ・コナギ・その他一年生雑草やマツバイ・ホタルイ・ヘラオモダカ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロなどの多年生雑草に対する除草効果が高く、一年生および多年生雑草の同時防除剤として、一発処理が可能である。③抑草期間が長い。高い効果が40日以上持続し、雑草の発生を長期間抑えるため、中期剤を省略することができる。④水稻に対する高い安全性。温度などの諸条件による影響が少なく、水稻の活着後に使用するため、より安全性が高い。⑤人畜に対する毒性が低く、魚介類に影響が少ない。

毒性：急性経口および急性経皮毒性はいずれ

も普通物である。

使用方法：東海・北陸以北の普通期栽培地帯では移植後7～15日に、近畿以西の普通期及び早期栽培では移植後5～12日に、10a当り3kgを湛水散布する。

使用上の注意：①雑草の発生状況は各地域の気象条件などによって異なり、特に多年生雑草は生育段階によって効果がふれる場合があるので、必ず地域に合った適期に散布する。ホタルイ・ウリカワ・ヘラオモダカおよびミズガヤツリは2葉期まで、ヒルムシロは発生期までが散布適期。②オモダカやクログワイなどの難防除雑草が多発する水田では、本剤だけでは十分な効果があげられないのでオモダカやクログワイに効果のある除草剤を併用する。③散布にあたっては止水し、通常の湛水状態（湛水深3～5センチ）で均一に散布する。散布後3～4日間は、そのまま湛水を保ち極端な浅水や深水にならないように注意し、落水、かけ流しはさける。④砂質土壌の水田や漏水田（1日の減水深が2センチ以上）、また山間冷水地帯では、薬害を生ずる場合や効果の低下がみられる場合もあるので使用しない。⑤極端な浅植えや浮き苗の多い水田などで、水稻の根が露出している場合は使用をさける。⑥軟弱苗を移植した水田での使用はさけ、本剤の散布後の補植はしない。

リードゾン®粒剤

ピラゾレート・プロモブチド・

メフェナセツト粒剤

（取扱メーカー） 三 共 株 式 会 社
（リードゾン普及会）

住友化学工業株式会社

日本特殊農薬製造株式会社
北興化学工業株式会社
山 本 農 薬 株 式 会 社

対象作物：移植水稻

成分・作用特性：本剤は4-(2,4-ジクロロベンゾイル)-1,3-ジメチル-5-ピラゾリル-p-トールエンシルホネート……ピラズレート4.0%, (RS)-2-プロモ-N-(α , α -ジメチルベンジル)-3,3-ジメチルブチルアミド……プロモブチド4.0%, 2-ベンゾチアゾール-2-イルオキシ-N-メチルアセトアニリド……メフェナセット3.5%を含有する類白色の細粒である。

本剤は、ピラズレート、プロモブチド及びメフェナセットの各々の作用特性が活かされ、極めて高い除草効果と優れた抑草期間を有している。

ピラズレートは水田中で加水分解を受けて変化したデストシルピラズレート(DTP)が除草活性の本体であり、クロロフィル(葉緑素)の生成を阻害し、いわゆる栄養飢餓状態から雑草を枯死させる。プロモブチドは、雑草の幼芽部及び根部から吸収され、容易に茎葉部へ移行する。移行した成分は、雑草の生長点の細胞分裂(新芽の伸長)を阻害するため生育を強く抑制し、徐々に枯殺する。メフェナセットは、根部・幼芽部から吸収され、雑草の生長点における細胞サイクルの静止期・代謝期に作用し、細胞の分裂・伸長を阻害することによって植物の生育を停止させ枯死させる。

特 徴：

1. 広い処理適期幅。

本剤は従来の初期一発剤に比べ散布適期幅が広く、雑草の発生始はもちろんノビエの2~3葉期まで優れた効果を発揮する。

2. 広範囲の雑草を長期間抑える。

ノビエ・コナギ等の一年生雑草からホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ等の多年生雑草まで広範囲の雑草に優れた除草効果を示すとともに、本剤の各成分とも土壤中での移動性は比較的小さく、土壌吸着性も優れているため、抑草期間は長く広範囲の雑草の発生を長期間にわたって抑える。

3. 水稻に対して高い安全性。

本剤の有効成分であるピラズレート、プロモブチド、メフェナセットは、いずれも水稻に対し安全性が高いので通常の使用条件では安心して使用できる。

4. 人畜・魚介類に高い安全性。

本剤の人畜毒性及び魚毒性は低く、使用時での安全性はもちろん環境への影響も少ない。

毒 性：

人畜毒性：普通物，魚毒性：B類。

使 用 方 法：

移植後5日から15日までに、10アール当たり3kgを湛水状態で均一散布する。

使用上の注意：

1. 本剤は、雑草の発生前から生育初期に効果があるので、時期を失しないように散布する。多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布する。ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヘラオモダカには2葉期まで、ヒルムシロは発生期までが散布適期である。

2. 散布の際は、湛水状態(水深3~5cm)

でまきむらがないように均一に散布する。また、極端な浅水や深水で使用しない。

3. 散布後3～5日間はそのまま湛水を保ち、田面を露出させず、落水、かけ流しは厳禁である。入水は静かに行う。
4. 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平化作業、植付けはていねいに行う。また、極端な浅植え、浮き苗などで根が露出している水田で使用しない。
5. 次の条件下では、初期生育の抑制やクロロシスが生ずる恐れがあるので使用はやめる。特にこれらの条件と梅雨明けの散布時、散布後数日間の異常高温が重なると、初期生育の抑制が著しくなる。
 - (1) 砂質土壌の水田及び漏水の大きな(1日の減水深2cm以上)水田。
 - (2) 軟弱な苗を移植した水田。

適用草種と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール当り使用量	本剤のみを使用する場合の使用回数	使用方法	適用地帯
移植水稲	水田一年生雑草及びマツバイ・ホタルイ・ウリカワ・ミズガヤツリ・ヒルムシロヘラオモダカ(北海道)	移植後5～15日(ノビエ2葉期)まで	壤土～埴土(減水深2cm/日以下)	3kg	1回	湛水	北海道、東北、北陸
		移植後5～15日(ノビエ2.5葉期)まで				散布	関東以西(九州、南四国などの暖地を除く)の普通期及び早期栽培地帯
		移植後5～15日(ノビエ3葉期)まで					九州、南四国などの暖地の普通期及び早期栽培地帯

ハービエース水溶剤

ピアラホス水溶剤

(取扱メーカー) 明治製菓株式会社
武田薬品工業株式会社

対象作物：ぶどう・りんご・キャベツ・はくさい・トマト・きゅうり・すいか・花木・桑。

成分・作用特性：本剤は、L-2-アミノ-〔(ヒドロキシ)(メチル)ホスフィノイル-L-アラニル-L-アラニン〕のナトリウム塩を有効成分として20.0%含有する青色水溶性細粒及び微粒である。本剤の有効成分は、ストレプトマイセス・ハイグロスコピカスに属する放線菌によって産出される醗酵生産物であり、醗酵生産物による除草剤としては世界で初めて実用化されたものである。醗酵生産物は一種の天然物であり、自然界における物質循環の中で代謝・

分解されて、土壌残留等による環境汚染の心配のない農薬である。

本剤は、非選択性茎葉処理型除草剤であり、植物に散布すると植物体内でグルタミン酸とアソモニアからグルタミンが合成される際に関与

するグルタミン合成酵素の活性を阻害する。こ

新 除 草 ・ 調 節 剤

のため、植物体内にアンモニアが異常蓄積し、この害作用により枯死に至る。本剤は、散布3～5日後に雑草の茎葉部が変色しはじめ、完成は雑草の種類、生育条件等によっても異なるが、通常7～14日を要する。

毒性：人畜毒性は普通物、魚毒性はB類である。本剤の急性毒性（LD₅₀値）はラットの経口で雄：5,400mg/kg、雌：5,200mg/kgであり、ラットの経皮で雌雄ともに2,000mg/kg以上である。

使用方法：今回登録となった適用作物、使用基準は表に掲げる通りである。なお、本剤は現在適用作物、適用雑草拡大のため、各種の試験を実施中である。

減ずるので、天候をよく見きわめてから散布する。②雑草の生育期に有効であるが雑草が大きくなると効果が劣るので時期を失しないように、薬液が雑草全体によく付着するようにていねいに散布する。③周辺の植物に薬液が付着すると薬害を生ずるので散布液が付近の農作物、樹木の茎葉に飛散しないように散布する。④散布液を調製した容器及び散布器具は使用后十分に洗っておく。

安全使用上の注意：①誤飲、誤食などのないように注意する。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、安静にして直ちに医師の手当を受けさせる。②眼及び皮膚に対して刺激性があるの

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤及びビ アラホスを含 む農薬の 総使用回数	使用 方法
			薬量	散布水量		
ぶどう	畑地 一年生 雑草	雑草生育期（草丈30 cm以下）収穫30日 前まで	500 ～ 750 g	100 ～ 150 l	3 回 以 内	雑草 茎葉 散布
りんご		雑草生育期（草丈30 cm以下）収穫21日 前まで			2 回 以 内	
キャベツ はくさい		定植前雑草生育期 （草丈20cm以下）	300 ～ 500 g	1 回		
トマト		雑草生育期定植前又 は定植後畦間処理		4 回 以 内		
きゅうり				3 回 以 内		
すいか		定植後畦間処理収穫 60日前まで		1 回		
花 木		雑草生育期（草丈20 cm以下）	500 ～ 750 g	—		
桑		春期萌芽前及び夏切 後（雑草生育期）				

で注意する。③散布の際は防護マスク・手袋・不浸透性防除衣など着用する。また、散布液を吸い込んだり、浴びたりしないよう注意し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいするとともに衣服を交換する。④かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意する。⑤動物実験では中毒時の痙攣等の抑制にフェノバルビタールナトリウム製剤の投与が有効であると報告されている。なお、本剤を貯蔵する場合は、直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保

使用上の注意：①散布直後の降雨は、効果を 管する。



「確かさ」で選ぶ…
バイエルの農薬

新しいヒエ剤登場 ® **ヒノクロア** 粒剤

〈NTN 801〉メフェナセット4.0%

特長

- ①ヒエに安定した高い効果。
- ②処理適期幅が広く使い易い。
- ③土壌吸着力に優れ、移植水稻に安全性が高い。
- ④残効性に優れる。
- ⑤毒性が低く人畜、魚介類に安全性が高い。

®は登録商標

日本特殊農薬製造株式会社

東京都中央区日本橋本町2-7-1 ☎ 103

■ヒノクロアの混合粒剤で適剤適所■

●初・中期一発処理除草剤

特農 **シンサン** 粒剤

〈NTN 831〉メフェナセット3.5% ナプロアニリド7.0% プロモブチド4.0%

●初・中期一発処理除草剤

特農 **リードゾン** 粒剤

〈FSS 115〉メフェナセット3.5% ピラゾレート4.0% プロモブチド4.0%

●初・中期一発処理除草剤

特農 **クリアランド** 粒剤

〈FSB〉メフェナセット3.5% ピラゾレート4.0% ベンタゾン5.5%

●新型除草剤

特農 **クロアベスト** 粒剤

〈NTN 804〉メフェナセット5.0% ナプロアニリド7.0%

植調協会だより

◎ 人事異動

昭和62年3月1日付け

命 研究所勤務 主査研究員 権田重雄

命 事務局勤務 技術部調査課 山崎和己

残留分析係長

昭和62年2月14日付け

退職 事務局 技師 長山 優

去る2月27日、植調会館にて、本誌の62年度編集会議が開催された。宮原、太田、市橋、小淵、杉山編集委員と協会の吉沢専務、吉田常務、小沢の出席で、62年4月号より63年3月号（21巻1号～12号）のテーマ・執筆予定者について、夫々提案、検討、審議され「編集計画」が策定

された。巻頭言、除草剤、生育調節剤の水稻他各種作物に対する試験成績の概要は従来通りとし、民間研究所、新しい農薬の紹介はさらに充実して、新たに人事往来の欄を設けることにした。関係各位の一層の御批判と御支援を渴望する次第である。

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東1丁目26番6号

電話 東京（03）832-4188（代）

昭和62年3月発行

植調第20巻第12号

定価 400 円（送料 170 円）

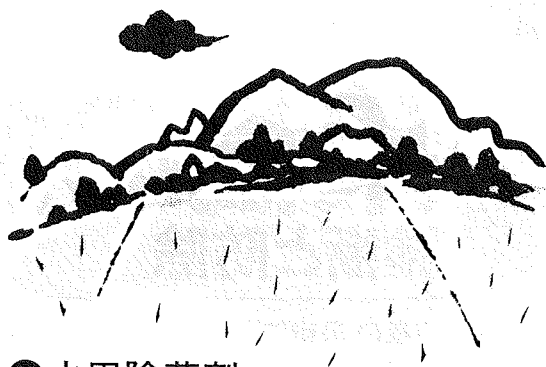
編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢 長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都台東区台東1-26-6 全国農村教育協会
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京（03）833-1821番（代）

農薬は正しく使いましょう。

一発いちばん！

ヨートル普及会



●水田除草剤

ヨートル®粒剤

◆一発処理でも高い防除効果を示す水田初期除草剤

- 広範囲の雑草に効果があります。
- 処理適期幅が広く、使いやすい除草剤です。
- 雑草がダラダラ発生する場合でも安定した効果があります。

種子から収穫まで護る ホクコー農薬

初期除草剤

デルカット®乳剤
ロンスター®乳剤
モータウン®粒剤
クサカリン®粒剤
サリオ®粒剤
マーシェット®粒剤2.5

中期除草剤

セスロン®粒剤
バサグラン®粒剤
(ナトリウム塩)

初・中期一発処理除草剤

リードゾン®粒剤
クリアラント®粒剤

水稻倒伏軽減剤

新
発売

セリタード®粒剤



農協
経済連
全農



北興化学工業株式会社

東京都中央区日本橋本石町4-4-20

果樹栽培関係者必携！

山口 昭・大竹昭郎／編

新刊

果樹の病害虫

診断と防除

A5判 644頁(カラー62頁)上製本
定価6,800円

わが国で栽培する17種の果樹に発生する病害虫470余種。その発生生態と防除法について最新の知見にもとずいて解説した本格的実用書。

カンキツ・リンゴなどの代表的なものからビワ・イチジクなどのマイナー作物やキウイフルーツなどの新しい樹種まで17種の果樹に発生する470余種もの病害虫を網羅。各樹種ごとに病害虫の発生生態・診断方法・防除方法を117名に及ぶ現場の専門家が最新の知見にもとづいて、くわしく、具体的に解説する。巻頭では、重要な病害虫を383点に及ぶ鮮明なカラー写真で紹介し、的確な診断に役立つ。専門研究者、技術指導者はもちろん、果樹農家にとっても座右の書。

現場指導者・農薬関係者必携！

新刊

原色・作物の薬害

タブー視されていた薬害問題と
真正面から取り組んだ
わが国はじめての成書！

行本峰子・浜田虔二著

A5判
272頁(カラー64頁)
上製本
定価4,000円

本書は薬害症状編、薬害解説編、参考資料編からなり、症状編では各作物の薬害症状を230枚に及ぶカラー写真で紹介、解説編では薬害の定義から症状、発生要因、変動要因、事例、回避対策など、資料編では過去に記録された薬害の作物、症状、発生要因を化合物グループ別に配列する。

この本は、まず現場の方々にとって、極めて有用な情報源となり、現場におけるややこしい混乱を防ぎ、薬害問題の解決に役立ち、農薬の真の有効な活用がはかれるものと信じる。

この本は、

- ①薬害を予防するための技術的情報を与え、
- ②現場での異常現象の解釈に役立ち、
- ③解毒剤や混合剤、あるいは新農薬開発のためのヒントを与え、
- ④薬剤の作用機構・選択性機構や植物の生理機構の解明のためにも利用できる。

—松中昭— 本書巻頭言より—

内容見本進呈

全国農村教育協会

東京都台東区台東1-26-6(植調会館) 〒110 ☎ 03(833) 1821

振替東京1-97736

らくらく散布で多年草も防除



容器のまま代かき時に

散布できる水田除草剤

デルカット®

(オキサジアゾン・ブタクロール除草剤)

乳剤

★安全で省力的な機械散布もできます。

——— デルカット普及会 ———

日産化学・北興化学・ローヌ・プーラン アグロ・日本モンサント
〈事務局〉日産化学工業(株)農業事業部内 東京都千代田区神田錦町3-7-1

®：日本モンサント(株)登録商標

二十世紀なしの 熟期促進、収穫・出荷の調節に

エスレイル10

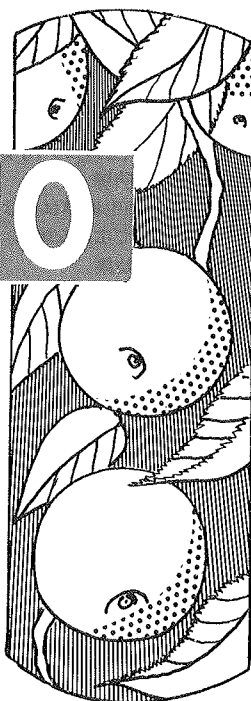
●——— 特長

1. 果実の品質を変えず、熟期・収穫期を促進します。
2. 散布時期を変えることにより、収穫時期の調節ができます。
3. 収穫期の調節によって、収穫労力の適正配分と、計画出荷ができます。
4. 収穫果実の品質のバラツキを少なくします。

2・4-D協議会

ISK 石原産業

★ 日産化学



流れは一発、ワンオール



ワンオール粒剤の特長

広範な雑草を防除

ノビエなどの1年生雑草はもとより、ウリカワ、ホタルイなどの多年生雑草まで広範な雑草に高い除草効果を示します。

安定した除草効果

処理適期幅が広く、気象の年次変動や雑草のダラダラ発生の状態においても安定した除草効果を発揮します。

抑草効果は長期間

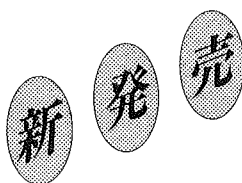
雑草の発生を長期間にわたって抑えます。そのため中期剤を省略することができます。

高い安全性

水稻に対する安全性が高いうえ、温度や土壌条件によって影響されることも少ないので、安心して使えます。

人畜、魚介類に安全

人畜に対する毒性は低く、魚介類に対しても影響の少ない除草剤です。



水田初期一発処理除草剤

ワンオール® 粒剤



農 協
経 済 連
全 農

ワンオール協議会

全国農業協同組合連合会

日本チバガイギー株式会社

石原産業株式会社

八洲化学工業株式会社

事務局 石原産業株式会社

東京都千代田区富士見2-10-30

資料請求券
ワンオール



効きめの長さを、あらゆる雑草で 証明するラウンドアップ。

「枯らしてもすぐ生える」というイライラに終止符。

ラウンドアップは、雑草の葉から入って根まで枯らします。根まで枯らしてしまえば、どんな雑草でも、長い間抑えることができます。

有用植物の根から吸収されません。

ラウンドアップは、いったん地面に落ちると、ただちに土の粒子に吸着され薬効を失います。ですから有用植物の根からは吸収されませんので作物には安全です。

取扱いが容易で、安心してご使用できます。

ラウンドアップは、動・植物の体を構成しているアミノ酸という自然な物質が主成分ですから、きわめて安全性が高く、取扱いも容易で安心してお使いいただけます。



®米国モンサント社登録商標

●ラウンドアップを詳しく説明したパンフレットを差し上げております。下記の住所までお申し込みください。

ラウンドアップ普及会クミアイ化学工業(株)・三共(株)

事務局 日本モンサント株式会社農業事業部

〒100 東京都千代田区丸の内3-1-1国際ビル Tel.(03)287-1251

資料請求券
P-100

一年生・多年生雑草を
まとめて枯らす

●水田初期一発除草に
クサホープ® 粒剤

●水田の体系除草に
初期 **クミリードSM 粒剤**
中期 **サターンS 粒剤**
クミアイ **ソルネット® 粒剤** (または)



農協・経済連・全農

自然に学び 自然を守る
クミアイ化学工業株式会社
本社/〒110-91 東京都台東区池之端1-4-26 TEL.03-823-1701

確かな効き目で、農作業にゆとりを作る！
マメット®SM 粒剤
(水田中期除草剤)



- ノビエの3.5葉でも効果バッチリ！
- 多年生雑草にも効果抜群！
- 確実な雑草防除で、経済的！
- 残効が長く、省力的！
- 稲に安全、他剤の近接散布もOK！

■雑草の発生に合わせて姉妹品の
マメット® 粒剤、**オードラム®M 粒剤**
もお使いください。

モリネット普及会